

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成26年3月1日  
(第79期) 至 平成27年2月28日

岡谷鋼機株式会社

(E02553)

第79期（自平成26年3月1日 至平成27年2月28日）

# 有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し、提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書の添付書類は含まれておりませんが、監査報告書は末尾に綴じ込んでおります。

岡谷鋼機株式会社

# 目 次

頁

## 第79期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	11
第2 【事業の状況】	12
1 【業績等の概要】	12
2 【販売の状況】	13
3 【対処すべき課題】	14
4 【事業等のリスク】	14
5 【経営上の重要な契約等】	17
6 【研究開発活動】	17
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	17
第3 【設備の状況】	20
1 【設備投資等の概要】	20
2 【主要な設備の状況】	21
3 【設備の新設、除却等の計画】	24
第4 【提出会社の状況】	25
1 【株式等の状況】	25
2 【自己株式の取得等の状況】	28
3 【配当政策】	29
4 【株価の推移】	29
5 【役員の状況】	30
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	34
第5 【経理の状況】	48
1 【連結財務諸表等】	49
2 【財務諸表等】	92
第6 【提出会社の株式事務の概要】	108
第7 【提出会社の参考情報】	109
1 【提出会社の親会社等の情報】	109
2 【その他の参考情報】	109
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	110
監査報告書	巻末

**【表紙】**

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年5月29日

【事業年度】 第79期(自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

【会社名】 岡谷鋼機株式会社

【英訳名】 OKAYA&CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 岡 谷 篤 一

【本店の所在の場所】 名古屋市中区栄二丁目4番18号

【電話番号】 (052)204-8141

【事務連絡者氏名】 取締役経理本部長 河 村 元 志

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号丸の内中央ビル13階

【電話番号】 (03)3215-7792

【事務連絡者氏名】 東京本店経理部長 白 鳥 堅 治

【縦覧に供する場所】 岡谷鋼機株式会社東京本店  
(東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
丸の内中央ビル13階)

岡谷鋼機株式会社大阪店  
(大阪市西区新町一丁目27番5号)

株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成23年2月	平成24年2月	平成25年2月	平成26年2月	平成27年2月
売上高 (百万円)	644,180	680,040	692,096	744,403	816,828
経常利益 (百万円)	10,065	11,210	13,408	16,750	19,525
当期純利益 (百万円)	7,318	8,483	8,731	10,242	12,471
包括利益 (百万円)	—	4,555	19,278	25,951	35,056
純資産額 (百万円)	90,337	92,201	110,246	134,647	173,195
総資産額 (百万円)	347,058	357,660	362,483	406,481	484,722
1株当たり純資産額 (円)	1,705.85	1,774.49	2,139.57	13,191.56	17,128.77
1株当たり 当期純利益金額 (円)	151.41	176.10	181.35	1,063.71	1,295.23
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	150.02	175.47	180.94	—	—
自己資本比率 (%)	23.7	23.9	28.4	31.2	34.0
自己資本利益率 (%)	9.5	10.1	9.3	8.9	8.5
株価収益率 (倍)	6.0	5.1	5.3	6.1	5.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△2,332	1,733	16,104	6,011	4,214
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,702	△3,753	△3,346	△1,662	△5,067
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,411	2,633	△12,260	△5,050	△309
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	6,774	6,985	8,307	8,801	8,675
従業員数 (名)	4,571	4,663	4,800	4,835	4,916
	[226]	[216]	[264]	[230]	[242]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第78期及び第79期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在しますが、希薄化効果を有しないため、記載しておりません。

3 平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。これに伴い、第78期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

4 従業員数の [ ] は臨時従業員数を外書しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成23年 2月	平成24年 2月	平成25年 2月	平成26年 2月	平成27年 2月
売上高 (百万円)	498,907	531,927	518,553	540,720	578,547
経常利益 (百万円)	5,430	7,858	8,669	11,430	13,178
当期純利益 (百万円)	3,637	6,921	6,125	7,576	7,654
資本金 (百万円)	9,128	9,128	9,128	9,128	9,128
発行済株式総数 (株)	48,600,000	48,600,000	48,600,000	48,600,000	9,720,000
純資産額 (百万円)	67,521	70,289	83,090	100,972	125,728
総資産額 (百万円)	282,015	292,907	288,731	320,278	371,953
1株当たり純資産額 (円)	1,399.19	1,458.99	1,724.71	10,479.86	13,049.92
1株当たり配当額 (円)	22.00	24.00	25.00	27.00	95.00
(うち1株当たり 中間配当額) (円)	(11.00)	(12.00)	(12.00)	(12.00)	(15.00)
1株当たり 当期純利益金額 (円)	75.20	143.59	127.15	786.33	794.52
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	23.9	24.0	28.8	31.5	33.8
自己資本利益率 (%)	5.7	10.0	8.0	8.2	6.8
株価収益率 (倍)	12.0	6.3	7.6	8.3	9.6
配当性向 (%)	29.3	16.7	19.7	17.2	19.5
従業員数 (名)	654	660	661	693	688

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。

これに伴い、第78期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

4 第79期の1株当たり配当額95円は、平成26年9月1日を効力発生日とした株式併合前の1株当たり中間配当額15円と当該株式併合後の1株当たり期末配当額80円を合算した金額となっております。従って、株式併合前から1株所有している場合の1株当たりの年間配当額は31円相当であり、株式併合後換算の年間配当額は155円相当であります。

## 2 【沿革】

年(西暦)	項目
寛文9年(1669)	初代岡谷總助宗治名古屋にて屋号を笹屋、名を惣助(通称笹惣)として金物商を開業
文久2年(1862)	大阪へ支店(通称福店(ふくだな)、現大阪店)開設
明治5年(1872)	東京へ支店(通称益店(ますだな)、現東京本店)開設
明治42年(1909)	岡谷合資会社に改組
昭和12年(1937)	株式会社岡谷商店設立、岡谷合資会社を合併
昭和18年(1943)	福岡出張所(現九州支店)開設
”( ”)	岡谷鋼機株式会社と改称
昭和39年(1964)	米国岡谷鋼機会社(現連結子会社)をニューヨークに設立
昭和43年(1968)	豊田営業所(現豊田支店)開設
昭和49年(1974)	タイ王国にサイアム スリヤ会社(現連結子会社)を設立
昭和57年(1982)	シンガポール岡谷鋼機会社(現連結子会社)を設立
”( ”)	刈谷営業所(現刈谷支店)開設
”( ”)	タイ王国にUnion Autoparts Manufacturing Co., Ltd.(現連結子会社)を設立
昭和58年(1983)	香港岡谷鋼機有限公司(現連結子会社)を設立
昭和61年(1986)	名古屋本社ビル竣工
平成6年(1994)	仙台、新潟、富山、静岡、広島の各営業所をそれぞれ東北支店、新潟支店、北陸支店、静岡支店、中国支店に昇格
平成7年(1995)	名古屋証券取引所市場第二部に上場
平成9年(1997)	名古屋証券取引所市場第一部に上場
平成12年(2000)	浜松営業所を浜松支店に昇格
”( ”)	I S O 14001(環境)の認証を取得
平成18年(2006)	北海道営業所を北海道支店に昇格
”( ”)	北京岡谷鋼機有限公司(現連結子会社)を設立
”( ”)	ポーランド共和国にPoland Tokai Okaya Manufacturing Sp. z o.o.(現連結子会社)を設立
平成19年(2007)	I S O 9001 : 2000(品質マネジメントシステム)の認証を取得
”( ”)	タイ岡谷鋼機会社(現連結子会社)を設立
”( ”)	アメリカ合衆国にMex Okaya-TN (U.S.A.), Inc.(現連結子会社)を設立
”( ”)	メキシコ合衆国にMex Okaya-TN, S. DE R.L. DE C.V.(現連結子会社)を設立
平成20年(2008)	インド岡谷鋼機会社(現連結子会社)を設立
平成23年(2011)	ベトナム岡谷鋼機会社(現連結子会社)を設立
”( ”)	インドネシア岡谷鋼機会社(現連結子会社)を設立
平成24年(2012)	ブラジル岡谷鋼機会社(現連結子会社)を設立

### 3 【事業の内容】

当企業集団は商社である当社を中心として、鉄鋼、情報・電機、産業資材、生活産業の多様な商品の売買・製造等、国内及び海外において多角的な事業活動を展開しております。

当企業集団において、かかる事業を推進する連結対象会社は、連結子会社71社、持分法適用関連会社15社、合計86社から構成されております。

当企業集団のセグメントごとの取扱商品又はサービス内容及び主要関係会社名は下記のとおりであります。

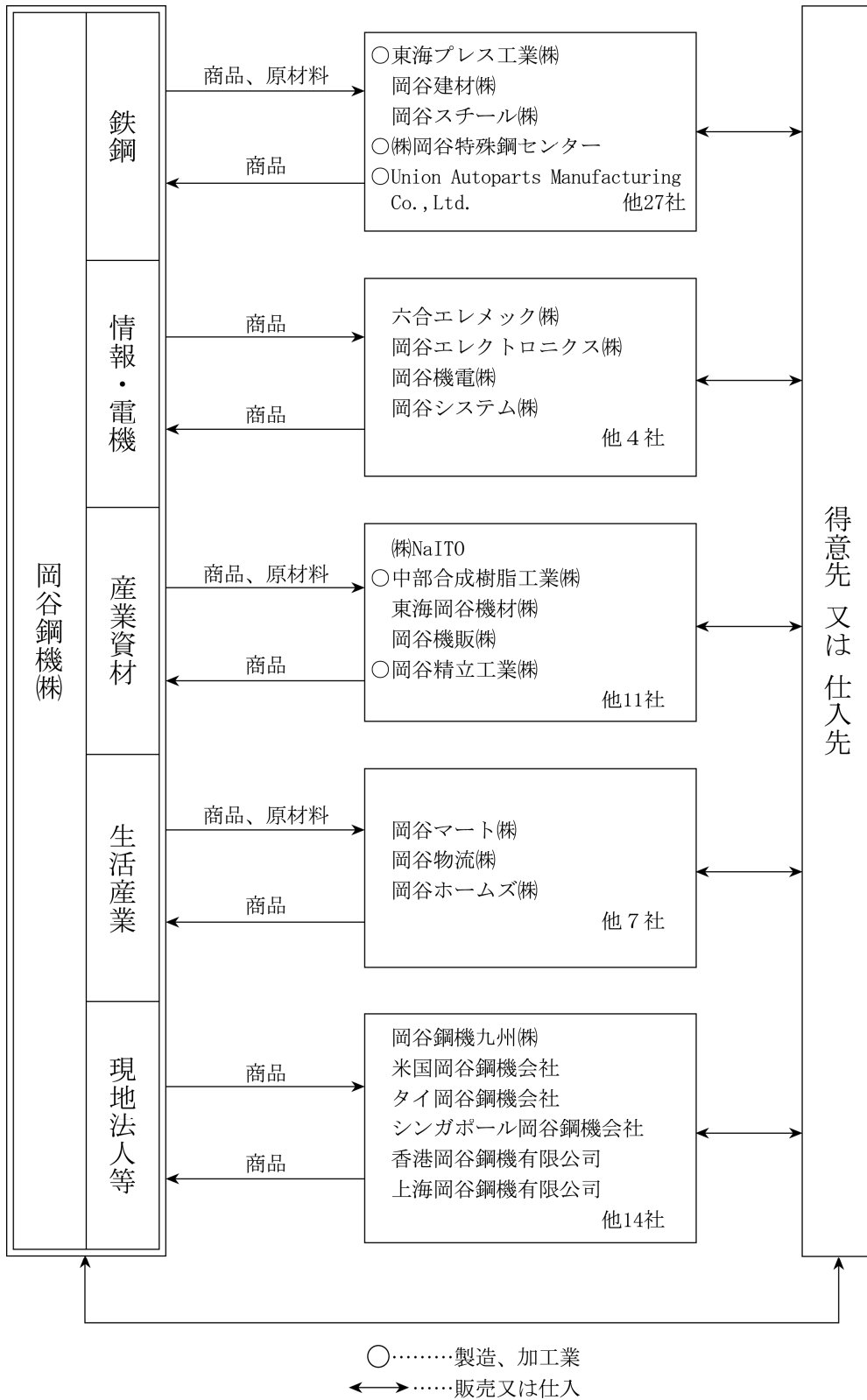
セグメントの名称等	取扱商品又はサービスの内容	主要関係会社名
岡 谷 鋼 機 株	鉄鋼 (32社)	鉄屑、棒鋼、鋼矢板、H型鋼、鋼板、鋼管、機械構造用炭素鋼、合金鋼、軸受鋼、工具鋼、ステンレス鋼 他 東海プレス工業(株) 岡谷建材(株) 岡谷スチール(株) (株)岡谷特殊鋼センター Union Autoparts Manufacturing Co.,Ltd.
	情報・電機 (8社)	銅、アルミ、レアアース、電子部材、汎用電機品、映像機器、半導体・周辺電子部品、ソフトウェア開発・販売 他 六合エレメック(株) 岡谷エレクトロニクス(株) 岡谷機電(株) 岡谷システム(株)
	産業資材 (16社)	工作機械、工具、産業用ロボット、自動車部品、合成樹脂原料、樹脂成形品、環境・リサイクル対応設備、半導体・電子関連設備機器 他 (株)N a I T O 中部合成樹脂工業(株) 東海岡谷機材(株) 岡谷機販(株) 岡谷精立工業(株)
	生活産業 (10社)	配管資材、住設機器、住宅用資材、不動産開発、分譲マンション、水産物、畜産物、倉庫業 他 岡谷マート(株) 岡谷物流(株) 岡谷ホームズ(株)
現地法人等 (20社)	多様な商品を取り扱う商社であり、国内及び主要な海外拠点において、当社と同様に多角的な事業活動を展開しております。	岡谷鋼機九州(株) 米国岡谷鋼機会社 タイ岡谷鋼機会社 シンガポール岡谷鋼機会社 香港岡谷鋼機有限公司 上海岡谷鋼機有限公司

(注) 上記においては、「現地法人等」の取扱商品が多岐にわたるため区分表示しておりませんが、セグメント情報では各セグメントに含めて表示しております。



(事業系統図)

事業の系統図は次のとおりであります。



#### 4 【関係会社の状況】

##### (1) 連結子会社

セグメント の名称等	名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	議決権の所有 又は被所有 割合(%)	関係内容			
					役員の兼任		融資	営業上の取引
					当社 役員 (人)	当社 職員 (人)		
鉄鋼	東海プレス工業㈱	愛知県弥富市	210	100.0	1	2	有	商品の仕入 及び販売
	岡谷建材㈱	東京都江東区	100	85.8	—	2	有	商品の仕入 及び販売
	㈱新金谷	新潟県上越市	98	95.0	1	3	有	商品の仕入 及び販売
	岡谷エコ・アソート㈱ (注) 4	北海道苫小牧市	98	50.0	—	3	無	商品の仕入 及び販売
	岡谷薄板販売㈱	名古屋市市中村区	90	100.0	—	3	有	商品の仕入 及び販売
	岡谷スチール㈱	名古屋市市中村区	70	100.0	—	3	有	商品の仕入 及び販売
	㈱新池田	山形県鶴岡市	55	95.0	—	4	有	商品の仕入 及び販売
	㈱岡谷特殊鋼センター	愛知県丹羽郡 大口町	50	100.0	—	4	有	商品の仕入 及び販売
	東北岡谷鋼機㈱	仙台市青葉区	50	100.0	—	5	無	商品の仕入 及び販売
	服部鋼運㈱	名古屋市港区	20	60.0	—	3	無	商品の販売
	㈱新タニガキ	大阪府豊中市	20	95.0	—	3	無	商品の仕入 及び販売
	Union Autoparts Manufacturing Co., Ltd. (注) 2	タイ サムットプラカーン県	THB 350,000,000	98.3	2	3	無	商品の仕入 及び販売
	Mex Okaya-TN (U. S. A.), Inc. (注) 1	アメリカ カリフォルニア州	USD 7,000,000	[30.0] 90.0	—	4	有	商品の販売
	上海岡谷精密機器 有限公司 (注) 1	中国、上海市	USD 9,000,000	[12.2] 100.0	1	4	有	—
	Poland Tokai Okaya Manufacturing Sp. z o.o.	ポーランド リソマイス郡	PLN 20,005,000	100.0	—	5	無	商品の販売
	UAM Philippines, Inc. (注) 1	フィリピン バタンガス州	PHP 185,000,000	[100.0] 100.0	1	2	無	—
	浙江岡新制管有限公司 (注) 1	中国、浙江省	300	[10.0] 60.0	1	2	無	商品の販売
	Vina Steel Center Co., Ltd.	ベトナム ブンタオ省	USD 3,000,000	100.0	—	6	有	商品の仕入 及び販売
	Okaya Shinnichi Corp. of America (注) 1	アメリカ ノースカロライナ州	USD 2,500,000	[14.0] 60.0	1	2	無	—
	Mex Okaya-TN, S. DE R.L. DE C.V. (注) 1	メキシコ バハ・カリフォルニア州	MXN 29,421,000	[99.0] 100.0	—	4	無	商品の販売
PT. Artokaya Indonesia	インドネシア 西ジャワ州	USD 1,700,000	70.9	1	5	無	商品の仕入 及び販売	
岡谷特殊鋼制品(大連) 有限公司(注) 1	中国、大連市	80	[87.5] 100.0	—	2	無	商品の販売	
International Mold Steel, Inc. (注) 1	アメリカ ケンタッキー州	USD 600,000	[67.0] 85.0	—	2	無	—	
UPI Real Estate, Inc. (注) 1, 4	フィリピン バタンガス州	PHP 15,003,000	[40.0] 40.0	1	1	無	—	

セグメント の名称等	名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	議決権の所有 又は被所有 割合(%)	関係内容			
					役員の兼任		融資	営業上の取引
					当社 役員 (人)	当社 職員 (人)		
情報・電機	六合エレメック(株)	名古屋市東区	80	83.2	1	2	無	商品の仕入 及び販売
	岡谷エレクトロニクス(株)	横浜市港北区	60	100.0	1	3	有	商品の仕入 及び販売
	岡谷機電(株)	名古屋市中村区	50	100.0	—	2	有	商品の仕入 及び販売
	岡谷システム(株)	名古屋市中区	45	99.3	1	2	無	ソフトウェア の開発委託
	六合システム電子工業(株) (注) 1	名古屋市東区	30	[100.0] 100.0	—	—	無	商品の仕入 及び販売
	六合サービステクノ(株) (注) 1	名古屋市東区	10	[100.0] 100.0	—	—	無	商品の販売
	上海洛庫高電子有限公司 (注) 1	中国、上海市	30	[100.0] 100.0	—	2	無	—
産業資材	(株)N a I T O (注) 2, 3, 4	東京都北区	2,291	45.6	2	2	無	商品の仕入 及び販売
	中部合成樹脂工業(株)	愛知県豊川市	100	100.0	2	3	有	商品の仕入 及び販売
	東海岡谷機材(株)	愛知県刈谷市	50	100.0	—	2	有	商品の寄託、仕入 及び販売
	岡谷機販(株)	名古屋市中川区	50	100.0	—	4	有	商品の仕入 及び販売
	岡谷精立工業(株)	東京都足立区	50	92.2	—	2	無	商品の仕入 及び販売
	岡谷鋼機北海道(株)	北海道苫小牧市	50	100.0	1	3	無	商品の仕入 及び販売
	岡谷岩井北海道(株)	北海道苫小牧市	20	65.0	1	3	無	商品の仕入 及び販売
	静岡中部合成(株) (注) 1	静岡市駿河区	10	[11.0] 81.0	1	2	有	商品の仕入 及び販売
	Siam Okaya Chemical Co., Ltd. (注) 1	タイ ラヨーン県	THB 80,000,000	[8.1] 87.5	1	2	無	—
	SOMAT Co., Ltd. (注) 1	タイ、バンコク	THB 20,000,000	[100.0] 100.0	—	3	無	商品の仕入 及び販売
	NaITO Vietnam Co., Ltd. (注) 1	ベトナム ホーチミン市	USD 500,000	[100.0] 100.0	—	1	無	—
	Pearl & Okaya, Inc. (注) 1	アメリカ ケンタッキー州	USD 200,000	[50.0] 60.0	—	2	無	—
生活産業	岡谷マート(株)	東京都江東区	365	100.0	—	4	有	商品の仕入 及び販売
	ニシフミート(株)	東京都府中市	90	98.7	—	4	無	商品の仕入 及び販売
	岡谷物流(株)	名古屋市中川区	80	100.0	1	3	無	商品の寄託、仕入 及び販売
	岡谷ホームズ(株)	名古屋市中区	50	100.0	—	4	有	商品の仕入 及び販売
	岡谷サービス(株) (注) 6	名古屋市中区	20	100.0	1	3	無	商品の仕入 及び販売
	岡谷ビルディング管理(株) (注) 6	名古屋市中区	10	100.0	1	2	無	ビル管理業務の 委託
	岡谷トレードサービス(株)	東京都新宿区	10	100.0	—	3	無	輸出入事務の委託 商品の仕入
	岡谷コンサルタント(株)	名古屋市中区	10	100.0	1	3	無	経理業務の委託

セグメント の名称等	名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	議決権の所有 又は被所有 割合(%)	関係内容			
					役員の兼任		融資	営業上の取引
					当社 役員 (人)	当社 職員 (人)		
一 (注) 5	岡谷鋼機九州㈱	福岡市中央区	310	100.0	1	3	有	商品の仕入 及び販売
	米国岡谷鋼機会社 (注) 2	アメリカ イリノイ州	USD 14,000,000	100.0	2	5	無	商品の仕入 及び販売
	タイ岡谷鋼機会社	タイ、バンコク	THB 310,000,000	100.0	3	4	無	商品の仕入 及び販売
	シンガポール岡谷鋼機 会社	シンガポール シンガポール	USD 2,553,980	100.0	2	2	無	商品の仕入 及び販売
	香港岡谷鋼機有限公司	中国、香港	HKD 20,700,000	100.0	—	4	無	商品の仕入 及び販売
	インドネシア岡谷鋼機 会社 (注) 1	インドネシア ジャカルタ市	USD 3,000,000	[20.0] 100.0	1	5	無	商品の仕入 及び販売
	北京岡谷鋼機有限公司	中国、北京市	USD 1,000,000	100.0	—	4	無	商品の仕入 及び販売
	ベトナム岡谷鋼機会社	ベトナム ホーチミン市	USD 1,000,000	100.0	—	6	無	商品の仕入 及び販売
	欧州岡谷鋼機会社	ドイツ デュッセルドルフ	EUR 613,550	100.0	—	5	無	商品の仕入 及び販売
	インド岡谷鋼機会社 (注) 1	インド、デリー	INR 35,000,000	[2.6] 100.0	2	4	無	商品の仕入 及び販売
	メキシコ岡谷鋼機会社 (注) 1	メキシコ グアナファト州	MXN 10,000,000	[35.0] 100.0	1	3	無	商品の販売
	天津岡谷鋼機有限公司	中国、天津市	USD 600,000	100.0	1	4	無	商品の仕入 及び販売
	広州岡谷鋼機有限公司	中国、広州市	USD 600,000	100.0	—	7	無	商品の仕入 及び販売
	サイアム スリヤ会社 (注) 4	タイ、バンコク	THB 18,000,000	49.0	1	3	有	商品の仕入 及び販売
	上海岡谷鋼機有限公司	中国、上海市	USD 500,000	100.0	—	5	無	商品の仕入 及び販売
	韓国岡谷鋼機会社	韓国、ソウル市	KRW 500,000,000	100.0	1	6	無	商品の仕入 及び販売
	台湾岡谷鋼機有限公司	台湾、台北市	TWD 10,000,000	100.0	1	4	無	商品の仕入 及び販売
	カナダ岡谷鋼機会社	カナダ ブリティッシュ コロンビア州	CAD 300,000	100.0	—	3	無	商品の仕入 及び販売
	豪州岡谷鋼機会社	オーストラリア ニューサウス ウェールズ州	AUD 300,000	100.0	—	4	無	商品の仕入 及び販売
ブラジル岡谷鋼機会社 (注) 1	ブラジル サンパウロ市	BRL 750,000	[10.0] 95.0	—	—	無	商品の仕入	

- (注) 1 「議決権の所有又は被所有割合」欄の [ ] は内数で、他の子会社による間接所有割合を示しております。
- 2 特定子会社であります。
- 3 有価証券報告書の提出会社であります。
- 4 持分は100分の50以下であります。実質的に支配しているため子会社としております。
- 5 現地法人等であり取扱商品が多岐にわたるため区分表示しておりませんが、セグメント情報では各セグメントに含めて表示しております。
- 6 連結子会社である岡谷サービス㈱は、平成27年3月1日付で、同じく連結子会社である岡谷ビルディング管理㈱を吸収合併いたしました。

## (2)持分法適用関連会社

セグメント の名称	名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	議決権の所有 又は被所有 割合(%)	関係内容			
					役員の兼任		融資	営業上の取引
					当社 役員 (人)	当社 職員 (人)		
鉄鋼	㈱空見スチールサービス	名古屋市港区	300	31.0	—	3	無	商品の仕入 及び販売
	㈱常陸スチールセンター	茨城県那珂市	50	30.0	—	1	無	商品の仕入
	テツソー物流㈱	東京都江東区	30	34.5	1	—	無	—
	Siam Steel Service Center Public Co., Ltd.	タイ サムットプラカーン県	THB 639,997,880	29.7	—	3	無	商品の仕入 及び販売
	Siam MTK Co., Ltd.	タイ ラヨン県	THB 185,000,000	40.0	—	3	無	商品の仕入 及び販売
	Siam Goshi Manufacturing Co., Ltd. (注) 1, 3	タイ ラヨン県	THB 180,000,000	[18.0] 18.0	1	—	無	—
	林精鋼(蘇州)金属制造 有限公司(注) 1	中国、蘇州市	300	[20.0] 40.0	—	3	無	商品の仕入 及び販売
	南海岡谷模具(上海)有限公司	中国、上海市	140	42.8	—	3	有	—
情報・電機	奥田金属㈱	大阪市天王寺区	40	20.0	—	2	無	商品の仕入 及び販売
産業資材	中越精密工業㈱	富山県中新川郡 立山町	490	20.5	1	—	無	—
	エイチオーエンジニア リング㈱	愛知県清須市	90	48.9	—	2	無	—
	岩井岡谷マシナリー㈱	愛知県みよし市	50	30.0	—	2	無	商品の仕入 及び販売
	天津虹岡鋳鋼有限公司	中国、天津市	USD 8,000,000	49.0	1	1	有	商品の販売
生活産業	㈱鶴見工材センター	横浜市鶴見区	50	30.0	—	1	無	運送の委託 商品の寄託
	マキシマファーム㈱	宮城県宮城郡 松島町	4	25.0	—	—	無	—

- (注) 1 「議決権の所有又は被所有割合」欄の [ ] は内数で、他の子会社による間接所有割合を示しております。  
2 上記のうち、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。  
3 持分は100分の20未満ではありますが、実質的な影響力を持っているため関連会社としております。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成27年2月28日現在

セグメントの名称	従業員数(名)	
鉄鋼	2,733	(79)
情報・電機	512	(13)
産業資材	1,139	(135)
生活産業	292	(15)
全社	240	(-)
合計	4,916	(242)

- (注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。
- 2 従業員数欄の(外書)は、季節工、パートタイマーの従業員を含み派遣社員を除く、臨時従業員数であります。
- 3 全社は、主として管理部門の従業員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成27年2月28日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
688	37.5	12.0	8,031

セグメントの名称	従業員数(名)
鉄鋼	184
情報・電機	87
産業資材	144
生活産業	42
全社	231
合計	688

- (注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。
- 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- 3 全社は、主として管理部門の従業員であります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合との関係については特記すべき事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、新興国経済の足踏みが見られたものの米国の好況に支えられ、おおむね順調に推移しました。日本経済は消費税増税の影響がありましたが、政府の経済対策や追加金融緩和などにより緩やかに持ち直してきました。

このような環境下にあつて、連結売上高は8,168億28百万円で前連結会計年度比9.7%の増収となりました。

損益につきましては、売上総利益は539億20百万円（前連結会計年度比9.2%増）となりました。営業利益は161億95百万円（前連結会計年度比15.5%増）、経常利益は195億25百万円（前連結会計年度比16.6%増）となりました。また、当期純利益は124億71百万円で、前連結会計年度比21.8%の増益となりました。

①セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (鉄鋼)

鉄鋼部門では、国内の土木関連等の需要回復を背景として建設分野が順調に推移し、特殊鋼部門では、自動車、工作機械関連の直需を中心に順調でした。海外でも同様に米国、中国向けが好調でした。

鉄鋼部門全体では、当連結会計年度の売上高は3,523億9百万円（前連結会計年度比13.9%増）、営業利益は48億75百万円（前連結会計年度比13.8%増）となりました。

#### (情報・電機)

非鉄金属部門では、原材料の取扱いが伸び悩みましたが、電子部材を中心に堅調に推移し、エレクトロニクス部門では、通信及びOA機器関連、自動車関連の電子部品が順調でした。

情報・電機部門全体では、当連結会計年度の売上高は1,651億61百万円（前連結会計年度比6.3%増）、営業利益は35億47百万円（前連結会計年度比8.6%増）となりました。

#### (産業資材)

メカトロ部門、化成品部門ともに、国内外の自動車関連を中心に部品・工具、樹脂原料が順調でした。特にメカトロ部門では、引き続き海外向けの設備機械が高水準で推移しました。

産業資材部門全体では、当連結会計年度の売上高は2,363億34百万円（前連結会計年度比8.7%増）、営業利益は61億95百万円（前連結会計年度比22.0%増）となりました。

(生活産業)

配管住設部門では、住宅着工の減少及び子会社譲渡により、また建設部門では戸建住宅の販売不調もあり、いずれも微減となりました。

食品部門では、水産物の輸入が減少しましたが、加工食品販売会社の取得により増収となりました。

生活産業部門全体では、当連結会計年度売上高は630億22百万円（前連結会計年度比1.2%増）、営業利益は11億59百万円（前連結会計年度比26.2%減）となりました。

(注) 「第2 事業の状況」における記載金額は、消費税等を含まない額としております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、営業活動による収入超過を投資活動による支出及び配当金の支払いなどに充当した結果に加え、現金及び現金同等物に係る換算差額の増加もあり、86億75百万円（前連結会計年度比1.4%減）となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度においては、売上債権やたな卸資産の増加などにより支出は増加しましたが、税金等調整前当期純利益の計上や仕入債務の増加などにより収入も増加したため、42億14百万円（前連結会計年度は60億11百万円）の収入超過となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度においては、有形固定資産の取得などにより支出が増加し、50億67百万円（前連結会計年度は16億62百万円）の支出超過となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度においては、借入金の増加により収入は増加しましたが、配当金の支払いなどにより支出が増加し、3億9百万円（前連結会計年度は50億50百万円）の支出超過となりました。

## 2 【販売の状況】

前記「1 業績等の概要」及び「第5 経理の状況」における連結財務諸表注記(セグメント情報等)に記載しております。なお、セグメントごとの販売の状況は次のとおりであります。

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)		当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)		前年度比 (%)
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	
鉄鋼	309,282	41.5	352,309	43.1	13.9
情報・電機	155,360	20.9	165,161	20.2	6.3
産業資材	217,498	29.2	236,334	29.0	8.7
生活産業	62,262	8.4	63,022	7.7	1.2
合計	744,403	100.0	816,828	100.0	9.7



### 3 【対処すべき課題】

今後の見通しにつきましては、国内では、アベノミクス効果による個人消費の回復、企業の設備投資の継続、円安を背景とした輸出の増加などが期待され、また海外では米国を中心に緩やかな景気拡大が続くものと予想されます。

このような経済環境において、当社は国内外のグループ会社共々社会的責任を重視し、世界市場において、“ものづくり”に貢献する感性豊かな「グローバル最適調達パートナー」を目指し、中期計画の課題の達成に注力してまいります。

また、内部統制の充実・強化、コンプライアンスの徹底、環境に配慮した事業活動の推進など、経営品質の継続的改善にも努めてまいります。

### 4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財政状態、株価等に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあると考えております。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成27年5月29日）現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経済環境が変化するリスク

当社グループは、日本・アジア・北米・欧州等においてグローバルな事業展開を行っております。国内はもちろん、世界各国の景況変動により、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (2) 商品市況の変動によるリスク

当社グループは、鉄鋼製品をはじめとした多様な商品を扱っておりますが、市況の変動への適宜な対応が出来なかった場合、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (3) 為替変動によるリスク

当社グループは、国内外において外貨建取引を行っております。営業取引においては、為替変動リスクを軽減するため、原則として実需に基づく為替予約等のデリバティブ取引を締結しておりますが、海外連結会社の外貨建借入金等及び連結決算時の円換算については、今後の為替変動によって、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (4) 金利変動によるリスク

当社グループは、金融機関からの借入金により事業資金を調達しております。金利情勢等を勘案し、主として相対的に金利の低い短期借入金で調達し、長期借入金についても金利スワップ等を利用して金利コスト低減に努めておりますが、今後の金利変動によっては、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(5) 株価変動によるリスク

当社グループは、事業戦略の一環として、重要な取引先及び金融機関の株式を保有しておりますが、今後の株価動向によっては、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(6) 取引先の信用リスク

当社グループは、国内外の取引先に対し、営業債権・貸付金・保証等の形で信用を供与するとともに、商品の供給責任も有しております。取引先毎に適確な与信管理を行い、想定し得る回収リスクについては、情報に基づきこれまでのノウハウにて細心の対応をしており、また仕入先の信用状況等の把握にも努めております。特定の取引先において、倒産等により債務不履行が生じた場合、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(7) 事業投資リスク

当社グループは、事業展開を図るため、新会社の設立、既存の会社への投資等を行っております。新規投資については専門委員会で検討を行い、慎重を期しておりますが、投資先企業の企業価値が低下した場合、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(8) カントリーリスク

当社グループは、海外との取引や海外での事業投資を行っており、その国における政治や経済・社会情勢の変化、法的規制の変更などにより、代金の回収や事業継続が困難になるリスクを負っております。外部格付機関の情報をもとにカントリーリスクのランク付けを行うとともに、貿易保険を付保するなど、リスクの管理・ヘッジに努めておりますが、実際に特定の国において代金の回収や事業継続が不能となる事態が発生した場合、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(9) 品質保証によるリスク

当社グループは、商社という特性から大半の商品は他社ブランド商品ですが、一部グループ会社の製造した商品を当社グループが販売することがあります。品質管理には万全を期しておりますが、全ての商品について品質の不具合がなく、将来において品質問題が発生しないという保証はありません。大規模な品質問題が発生した場合、多額な補償損失が発生し、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、環境関連の法令及び規制により、国内外の取引先から環境負荷物質不使用についての保証を求められることがあります。専門委員会を中心に仕入先とも連携し慎重に対処いたしますが、不測の事態が発生した場合、取引に支障をきたし、その場合は経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(10) 法的規制によるリスク

当社グループは、国内及び海外において様々な法令や規制の適用を受けて事業展開を行っております。当社グループでは、コンプライアンスを経営上の重要な課題と位置付け、その強化に努めておりますが、コンプライアンス上のリスクを完全に排除することはできません。当社グループの事業活動が法令や規制に抵触するような事態が発生したり、予期せぬ法令や規制の新設・変更が行われたりした場合、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(11) 情報システム・情報セキュリティに関するリスク

当社グループは、情報資産の有効な活用とその適切な保護・管理を情報セキュリティ基本方針として定め、そのための体制の確立や諸規程の整備を行うとともに、情報システムの安全性確保の観点からも各種対策を講じております。しかしながら、予期せぬ事故や障害による情報システムの機能不全や情報資産の漏洩等の事態が発生する可能性を完全に排除することはできません。かかる事態が発生した場合、当社の経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(12) 自然災害等に係わるリスク

当社グループは、自然災害等による事業活動への被害を最小限にとどめるため、災害対応マニュアルの策定等の対応を進めております。しかしながらかかる自然災害等の被害は完全に回避できるものではなく、また想定をはるかに超える規模で発生する可能性もあり、かかる場合には事業活動に大きな影響を与える可能性があります。

(13) 役員・社員の内部統制によるリスク

当社グループは、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス及びリスク管理を経営上の重要な課題と位置付けており、内部統制システム整備の基本方針を定め、同システムの継続的な充実・強化を図っております。業務運営においては役員・社員の不正及び不法行為の防止に万全を期しておりますが、万一かかる行為が発生した場合、経営成績、財政状態及び当社の社会的信用に悪影響を及ぼす可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

特記事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

特記事項はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成27年5月29日）現在において、当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表作成にあたり、重要な影響を与える見積りを必要とする会計方針としては、以下のようなものがあると考えております。

#### ① 貸倒引当金

当社グループは、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。将来、取引先の財務状況等が悪化し支払能力が低下した場合には、引当金の追加計上又は貸倒損失が発生する可能性があります。

#### ② 投資有価証券及び出資金の減損処理

当社グループは、保有する有価証券について、時価のあるものについては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合に時価まで減損処理を行い、30%以上50%未満下落した株式等の減損にあつては、個別銘柄毎にその回復可能性を総合的に検討し実施することとしております。また、時価のない有価証券については実質価額が著しく低下した場合に減損処理を行っております。将来、株式の市況又は投資先の業績が悪化した場合には、さらなる評価損の計上が必要となる可能性があります。

#### ③ 繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産の回収可能性を評価するに際して、将来の課税所得を合理的に見積っております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存しますので、その見積額が減少した場合には、繰延税金資産が減額され税金費用の追加計上が発生する可能性があります。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、売上高につきましては、8,168億28百万円（前連結会計年度比9.7%増）となりました。損益につきましては、営業利益は161億95百万円（前連結会計年度比15.5%増）、経常利益は195億25百万円（前連結会計年度比16.6%増）、当期純利益は124億71百万円（前連結会計年度比21.8%増）となりました。

① 売上高及び営業利益

上記「1 業績等の概要」及び「第5 経理の状況」における連結財務諸表注記（セグメント情報等）に記載のとおりであります。

② 営業外損益

営業外損益は、前連結会計年度の27億30百万円に対し、当連結会計年度は33億30百万円となりました。これは、受取配当金の増加6億20百万円を主要因としたものであります。

③ 特別損益

特別損益は、前連結会計年度の△2億62百万円に対し、当連結会計年度は△1億61百万円となりました。これは、持分変動損失の減少1億69百万円を主要因としたものであります。

④ 当期純利益

当期純利益は、前連結会計年度102億42百万円に対して、22億28百万円増加し、124億71百万円（前連結会計年度比21.8%増）となりました。その結果、1株当たり当期純利益金額は前連結会計年度の1,063.71円から1,295.23円に増加しましたが、その他有価証券評価差額金の増加に伴う純資産の増加もあり、自己資本当期純利益率は8.9%から8.5%に減少しました。

(3) 財政状態の分析

① 資産

流動資産は、売上の増加や期末日休日の影響による売上債権やたな卸資産の増加などにより、前連結会計年度末に比べ374億25百万円増加し、2,827億15百万円となりました。固定資産は、株式相場の上昇に伴い保有株式の時価評価差額が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ408億16百万円増加し、2,020億7百万円となりました。その結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べ782億41百万円増加し、4,847億22百万円となりました。

② 負債

流動負債は、売上の増加や期末日休日の影響による仕入債務の増加などにより、前連結会計年度末に比べ206億96百万円増加し、2,423億76百万円となりました。固定負債は、保有株式の時価評価差額の増加に伴う繰延税金負債の増加などにより、前連結会計年度末に比べ189億98百万円増加し、691億51百万円となりました。その結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ396億94百万円増加し、3,115億27百万円となりました。

③ 純資産

保有株式の時価評価差額の増加に伴うその他有価証券評価差額金の増加に加え、当期純利益の増加により利益剰余金が増加し、その結果、純資産合計は、前連結会計年度末に比べ385億47百万円増加し、1,731億95百万円となりました。

#### (4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

##### キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の期末残高は、前連結会計年度末に比べて1億26百万円減少し、86億75百万円となりました。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローでは、税金等調整前当期純利益の計上193億64百万円や仕入債務の増加162億98百万円などにより資金が増加し、売上債権の増加191億69百万円やたな卸資産の増加107億27百万円などにより資金が減少いたしました。仕入債務、売上債権及びたな卸資産の増加は、売上の増加や期末日休日の影響などによるものであります。その結果、営業活動によるキャッシュ・フローは17億96百万円減少し、42億14百万円（前連結会計年度は60億11百万円）の収入超過となりました。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローでは、有形固定資産の取得による支出32億79百万円や定期預金の増加17億13百万円などにより資金が減少し、有形固定資産の売却による収入4億53百万円などにより資金が増加いたしました。その結果、投資活動によるキャッシュ・フローは34億4百万円減少し、50億67百万円（前連結会計年度は16億62百万円）の支出超過となりました。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローでは、配当金の支払14億45百万円により資金が減少し、短期借入金の増加21億15百万円、長期借入れによる収入91億87百万円、長期借入金の返済による支出99億64百万円などにより資金が増加いたしました。その結果、財務活動によるキャッシュ・フローは47億40百万円増加し、3億9百万円（前連結会計年度は50億50百万円）の支出超過となりました。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資の総額は41億円であり、主なものとしては次のとおりであります。

鉄鋼セグメントにおいて、連結子会社（Union Autoparts Manufacturing Co., Ltd.、Okaya Shinnichi Corp. of America、Poland Tokai Okaya Manufacturing Sp. z o.o.、Mex Okaya-TN (U.S.A.), Inc.並びにMex Okaya-TN, S. DE R.L. DE C.V.）が工場設備増強等のため、土地・建物並びに機械設備等の取得（投資額14億82百万円）を行いました。

産業資材セグメントにおいて、連結子会社（中部合成樹脂工業㈱、静岡中部合成㈱）が樹脂成型部品の受注のため、器具備品（金型）の取得（投資額8億76百万円）を行いました。

なお、当連結会計年度における重要な設備の除却又は売却はありません。

## 2 【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

平成27年2月28日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
本社・名古屋本店 (名古屋市中区)	全社	店舗	1,359	6	4 (2)	62	1,432	216
東京本店※1 (東京都千代田区)	〃	〃	18	0	—	18	36	185
東京本店※1 (東京都新宿区)	〃	〃	4	—	—	6	11	68
大阪店 (大阪市西区)	〃	〃	851	13	40 (1)	10	915	74
豊田支店 (愛知県豊田市)	〃	店舗及び 倉庫	144	16	273 (4)	11	446	48
刈谷支店 (愛知県刈谷市)	〃	〃	120	1	477 (2)	7	607	40
刈谷支店 (愛知県西尾市)	〃	倉庫	235	11	329 (8)	9	586	—
九州支店※1 (福岡市中央区)	〃	店舗	—	—	—	0	0	—
北海道支店 (北海道苫小牧市)	〃	〃	109	0	7 (6)	0	118	—
東北支店※1 (仙台市青葉区)	〃	〃	0	—	—	0	0	—
新潟支店※1 (新潟市中央区)	〃	〃	—	—	—	0	0	4
北陸支店※1 (富山県富山市)	〃	〃	0	—	—	0	0	3
静岡支店※1 (静岡市駿河区)	〃	〃	0	—	—	0	1	7
浜松支店※1 (浜松市中区)	〃	〃	0	3	—	0	4	11
中国支店※1 (広島市中区)	〃	〃	0	—	—	0	1	5
空見埠頭倉庫 (名古屋市中区)	鉄鋼	倉庫	418	143	265 (61)	2	829	2
味方配送センター (新潟市南区)	生活産業	〃	78	0	265 (12)	0	344	—
中川配送センター (名古屋市中川区)	〃	〃	14	2	42 (5)	1	61	—



事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
賃貸設備※2 (名古屋市港区)	鉄鋼	土地、建物 他	429	—	64 (14)	—	494	—
賃貸設備※2 (千葉県八千代市)	〃	〃	48	4	393 (8)	—	446	—
賃貸設備※2 (北海道苫小牧市)	〃	〃	39	0	294 (62)	0	334	—
賃貸設備※2 (新潟県上越市)	〃	〃	66	—	91 (15)	0	158	—
賃貸設備※2 (愛知県豊川市)	産業資材	〃	530	2	1,138 (28)	1	1,672	—
賃貸設備※2 (東京都北区)	〃	〃	122	—	311 (1)	—	433	—
賃貸設備※2 (愛知県みよし市)	〃	〃	93	2	220 (3)	0	316	—
賃貸設備 (千葉縣市川市)	生活産業	〃	3,829	17	546 (29)	3	4,397	—
賃貸設備 (千葉県八千代市)	〃	〃	44	1	1,506 (32)	—	1,551	—
賃貸設備※2 (名古屋市中区)	〃	〃	263	8	535 (3)	0	808	—
賃貸設備 (東京都江東区)	〃	〃	670	—	7 (8)	28	706	—
賃貸設備 (名古屋市熱田区)	〃	〃	279	3	91 (4)	0	374	—
賃貸設備 (名古屋市中区)	〃	土地	—	—	264 (0)	—	264	—
賃貸設備※2 (福岡県京都郡 荊田町)	〃	土地、建物 他	144	4	137 (5)	0	287	—
賃貸設備 (北海道苫小牧市)	〃	〃	43	—	17 (1)	—	61	—
賃貸設備※2 (大阪市港区)	〃	〃	872	8	58 (5)	0	938	—
賃貸設備 (大阪市北区)	〃	〃	230	0	260 (0)	0	491	—
賃貸設備 (名古屋市中区)	〃	〃	458	—	322 (0)	2	783	—
賃貸設備 (名古屋市中川区)	〃	〃	735	1	747 (6)	1	1,485	—

注) 1 上記のうち、※1は賃借している事業所であり、主な賃借の条件は次のとおりであります。

東京本店(東京都千代田区) 賃借料月額22百万円 差入保証金213百万円

東京本店(東京都新宿区) 賃借料月額5百万円 差入保証金99百万円

2 上記のうち、※2は主として連結会社に対する賃貸設備であります。

3 全社として記載している設備は複数セグメントを含む設備であるため区分表示しておりませんが、セグメント情報では各セグメントに含めて表示しております。

4 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

5 現在休止中の主要な設備はありません。

## (2) 国内子会社

平成27年2月28日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
東海プレス 工業(株)	愛知県 弥富市	鉄鋼	本社及び 工場	208	119	1,546 (46)	50	1,925	99 [1]
(株)新タニガキ	大阪府 豊中市	〃	〃	97	114	481 (3)	0	693	48 [2]
(株)新池田	山形県 鶴岡市他	〃	本社、営 業所及び 倉庫	57	23	328 (22)	5	415	40 [2]
(株)岡谷特殊鋼 センター	愛知県 丹羽郡 大口町	〃	本社及び 工場	63	76	273 (10)	1	414	49 [—]
岡谷エコ・ アソート(株)	北海道 苫小牧市 他	〃	〃	116	81	—	2	200	42 [3]
六合 エレメック(株)	名古屋市 東区他	情報・電機	本社、営 業所及び 倉庫	441	3	1,364 (7)	38	1,848	77 [1]
岡谷精立 工業(株)	東京都 足立区他	産業資材	本社及び 工場	303	1	601 (1)	11	918	89 [4]
中部合成樹脂 工業(株)	愛知県 豊川市	〃	〃	2	151	—	741	896	115 [51]
静岡中部 合成(株)	静岡市 駿河区	〃	〃	15	54	34 (1)	321	425	35 [23]
岡谷マート(株)	東京都 江東区他	生活産業	〃	42	7	316 (7)	6	372	112 [—]

- (注) 1 上記の金額には消費税等は含まれておりません。  
2 帳簿価額「その他」には、建設仮勘定の金額が含まれております。  
3 現在休止中の主要な設備はありません。  
4 従業員数の [ ] は臨時従業員数を外書しております。

## (3) 在外子会社

平成27年2月28日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
Union Autoparts Manufacturing Co., Ltd.	タイ サムット プラカーン 県他	鉄鋼	本社及び 工場	1,151	1,244	1,516 (186)	106	4,018	1,196 [32]
Poland Tokai Okaya Manufacturing Sp. z o. o.	ポーランド リソマイス 郡	〃	〃	834	450	59 (40)	46	1,391	249 [—]
Mex Okaya-TN (U. S. A.), Inc. ※1	アメリカ カリフォル ニア州	〃	〃	453	116	181 (19)	21	772	180 [—]
Okaya Shinnichi Corp. of America	アメリカ ノースカロ ライナ州	〃	〃	104	75	23 (25)	168	372	46 [—]
上海岡谷精密 機器有限公司	中国 上海市	〃	〃	112	236	—	3	351	37 [—]
Vina Steel Center Co., Ltd.	ベトナム ブンタオ省	〃	〃	217	62	—	0	280	20 [—]
UAM Philippines, Inc.	フィリピン バタンガス 州	〃	〃	217	12	—	15	245	85 [—]
Siam Okaya Chemical Co., Ltd.	タイ ラヨーン県	産業資材	〃	115	252	81 (16)	3	452	96 [—]
米国岡谷鋼機 会社※2	アメリカ イリノイ州 他	—	本社、営 業所及び 倉庫	305	79	71 (23)	12	468	50 [—]

- (注) 1 ※1の帳簿価額には、連結子会社であるMex Okaya-TN, S. DE R. L. DE C. V.の金額が含まれております。  
2 ※2は現地法人等であり取扱商品が多岐にわたるため区分表示しておりませんが、セグメント情報では各セグメントに含めて表示しております。  
3 上記の金額には消費税等は含まれておりません。  
4 帳簿価額「その他」には、建設仮勘定の金額が含まれております。  
5 現在休止中の主要な設備はありません。  
6 従業員数の[ ]は臨時従業員数を外書しております。

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

## (1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
提出会社	賃貸設備 (東京都 江東区)	生活産業	建物	2,200	28	借入金	平成27年 5月	平成28年 1月	—

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

## (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	35,571,200
計	35,571,200

(注) 平成26年5月22日開催の第78期定時株主総会決議に基づき、平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合に伴う定款の一部変更が行われ、発行可能株式総数は142,284,800株減少し、35,571,200株となっております。

##### ② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成27年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年5月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,720,000	9,720,000	名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	9,720,000	9,720,000	—	—

(注) 平成26年5月22日開催の第78期定時株主総会決議に基づき、平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合及び定款の一部変更が行われ、発行済株式総数は38,880,000株減少し、9,720,000株となり、単元株式数は500株から100株へ変更しております。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年3月1日～ 平成23年2月28日 (注)1	△344,480	48,600,000	—	9,128	—	7,798
平成26年9月1日 (注)2	△38,880,000	9,720,000	—	9,128	—	7,798

(注) 1 自己株式の消却による減少であります。

2 平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施し、発行済株式総数は38,880,000株減少し、9,720,000株となっております。

## (6) 【所有者別状況】

平成27年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	36	8	456	8	6	2,894	3,408	—
所有株式数(単元)	—	26,387	24	45,343	124	16	25,208	97,102	9,800
所有株式数の割合(%)	—	27.2	0.0	46.7	0.1	0.0	26.0	100.0	—

(注) 1 自己株式85,573株は、「個人その他」に855単元、「単元未満株式の状況」に73株含まれております。

2 平成26年5月22日開催の第78期定時株主総会決議に基づき、平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合及び定款の一部変更が行われ、1単元の株式数は500株から100株へ変更しております。

## (7) 【大株主の状況】

平成27年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
岡谷不動産㈱	名古屋市市中村区名駅南一丁目16番30号	1,214	12.49
岡谷篤一	東京都世田谷区	481	4.95
㈱三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	462	4.76
新日鐵住金㈱	東京都千代田区丸の内二丁目6番1号	424	4.36
三井住友信託銀行㈱	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	402	4.13
㈱りそな銀行	大阪市中央区備後町二丁目2番1号	265	2.73
損害保険ジャパン日本興亜㈱	東京都新宿区西新宿一丁目26番1号	251	2.58
岡谷鋼機社員持株会	名古屋市中区栄二丁目4番18号	186	1.91
オークマ㈱	愛知県丹羽郡大口町下小口五丁目25番1号	163	1.67
公益財団法人真照会	名古屋市中村区名駅南一丁目16番30号	138	1.42
計	—	3,989	41.04

(注) 公益財団法人真照会は、将来社会に貢献し得る人材を育成し、併せて学術・技芸の振興を図るために必要な奨学援助をなすことを目的として、大正6年に創設されました。

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成27年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 85,500	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 17,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,607,300	96,073	—
単元未満株式	普通株式 9,800	—	—
発行済株式総数	9,720,000	—	—
総株主の議決権	—	96,073	—

## ② 【自己株式等】

平成27年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 岡谷鋼機株式会社	名古屋市中区栄 二丁目4番18号	85,500	—	85,500	0.87
(相互保有株式) テツソー物流 株式会社	東京都江東区 塩浜一丁目1番20号	17,400	—	17,400	0.17
計	—	102,900	—	102,900	1.05

## (9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得及び  
会社法第155条第9号による普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第9号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成26年8月28日)での決議状況 (取得期間平成26年9月1日)	12.4	買取単価に買取対象株式数を 乗じた金額(注)
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	12.4	86,800
残存決議株式の総数及び価額の総額	—	—
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	—	—
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	—	—

(注) 買取単価は、買取日の株式会社名古屋証券取引所における当社普通株式の終値であります。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1,509	3,210,403
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 1 当期間における取得自己株式には、平成27年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

2 平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施いたしました。当事業年度における取得自己株式1,509株は、単元未満株式の買取りによるものであり、その内訳は株式併合前1,311株、株式併合後198株であります。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(株式併合による減少)	341,450.4	—	—	—
保有自己株式数	85,573	—	85,573	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成27年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増しによる株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を企業経営の重要政策の一つと考えており、競争力を維持・強化して株主資本の充実に努めつつ、配当を行うことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、企業体質の強化・充実並びに今後の事業展開なども考え、内部留保に意を用いながら、当事業年度の業績を勘案いたしまして、1株当たり80円といたしました。中間配当金は、平成26年9月1日を効力発生日とした、普通株式5株を1株とする株式併合前の基準となりますため、1株当たり15円といたしました。

なお、当該株式併合を考慮しない場合の中間配当金を含めました当期の年間配当金は、前期より4円増額し、1株につき31円に相当いたします。

内部留保資金につきましては、将来の事業展開に備えた経営基盤の強化を図る所存であります。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成26年9月30日 取締役会決議	722	15
平成27年5月28日 定時株主総会決議	770	80

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成23年2月	平成24年2月	平成25年2月	平成26年2月	平成27年2月
最高(円)	984	990	980	1,405	1,465 [7,870]
最低(円)	790	740	820	960	1,213 [6,860]

(注) 1 最高・最低株価は、名古屋証券取引所市場第一部におけるものであります。

2 平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施したため、第79期の株価については株式併合前の最高・最低株価を記載し、[ ]にて株式併合後の最高・最低株価を記載しております。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年 9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	2月
最高(円)	7,240	7,250	7,500	7,750	7,770	7,870
最低(円)	6,860	6,920	7,110	7,150	7,240	7,490

(注) 最高・最低株価は、名古屋証券取引所市場第一部におけるものであります。



5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 取締役社長		岡谷 篤一	昭和19年5月14日生	昭和45年9月 新日本製鐵㈱(現:新日鐵住金㈱)入社 昭和50年9月 当社入社 昭和57年5月 取締役就任 昭和60年5月 代表取締役(現)、常務取締役就任 平成2年5月 取締役社長就任(現) (他社の代表者兼務状況) 岡谷不動産㈱ 取締役社長 公益財団法人真照会 理事長	(注) 3	481
代表取締役 取締役副社長	営業部門管掌 東京本店長	川松 康吉	昭和23年1月21日生	昭和45年4月 当社入社 平成13年3月 Siam Steel Service Center Public Co., Ltd. 取締役副社長 平成13年5月 取締役就任 平成17年5月 常務取締役就任 平成19年5月 代表取締役(現)、専務取締役就任、営業部門管掌(現) 平成21年3月 ものづくり推進担当 平成23年5月 海外関連事業担当、東京本店長(現) 平成25年11月 取締役副社長就任(現)	(注) 3	4
代表取締役 専務取締役	管理部門管掌 産業資材事業 担当 名古屋本店長	馬場 紀彰	昭和26年11月15日生	昭和50年4月 当社入社 平成15年3月 メカトロ本部長 平成17年5月 取締役就任 平成21年5月 常務取締役就任、産業資材事業担当(現)、名古屋本店長(現) 平成25年11月 代表取締役(現)、専務取締役就任(現) 平成26年5月 管理部門管掌(現)	(注) 3	3
常務取締役	企画本部長	二宮 秀司	昭和23年9月20日生	昭和46年4月 当社入社 平成12年6月 化成品本部長 平成16年5月 取締役就任 平成18年5月 大阪店長 平成20年5月 常務取締役就任(現)、生活産業事業担当 平成25年5月 企画本部長(現)	(注) 3	3

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	人事総務部門・ 審査法務部門 担当	稲 生 豊	昭和23年4月23日生	昭和47年4月 当社入社 平成16年9月 企画部長 平成19年5月 取締役就任 平成21年5月 人事総務本部長 平成23年5月 常務取締役就任(現)、審査法務部 門担当(現) 平成24年3月 人事総務部門担当(現) 平成24年5月 企画部担当	(注) 3	3
常務取締役	鉄鋼事業担当  鉄鋼本部長 兼 貿易本部長	岡 谷 健 広	昭和48年10月17日生	平成15年9月 当社入社 平成20年3月 貿易本部第一部長 平成21年5月 常勤監査役就任 平成23年5月 常務取締役就任(現)、情報・電機事 業担当、プロジェクト本部長、海外関 連事業部長 平成25年5月 鉄鋼事業担当(現)、鉄鋼本部長 (現) 平成26年5月 貿易本部長(現)	(注) 3, 6	13
常務取締役	生活産業事業・ 経理部門担当  秘書役	金 剛 宣 邦	昭和28年7月10日生	平成16年4月 当社入社 平成21年3月 秘書役(現) 平成22年5月 取締役就任、関連事業部担当 平成23年5月 企画部担当 平成24年5月 経理本部長 平成27年5月 常務取締役就任(現)、生活産業事業 担当(現)、経理部門担当(現)	(注) 3	2
常務取締役	豊田本部長	吉 田 文 彦	昭和34年1月20日生	昭和56年4月 当社入社 平成22年5月 豊田本部長(現) 平成23年5月 取締役就任 平成24年5月 岡谷岩井北海道㈱ 取締役社長(現) 平成27年5月 常務取締役就任(現) (他社の代表者兼務状況) 岡谷岩井北海道㈱ 取締役社長	(注) 3	2
取締役	アセアン地区 担当	坪 内 彰 彦	昭和26年7月20日生	昭和50年4月 当社入社 平成15年3月 サイアム スリヤ会社 取締役社長 平成21年6月 Siam Okaya Machine & Tool Co., Ltd. (現:SOMAT Co., Ltd.) 取締役社長 平成22年5月 取締役就任(現)、貿易本部長 平成26年5月 タイ地区担当 Union Autoparts Manufacturing Co., Ltd. 取締役社長(現) 平成27年5月 アセアン地区担当(現) (他社の代表者兼務状況) Union Autoparts Manufacturing Co., Ltd. 取締役社長(現)	(注) 3	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	大阪店長	和田 宗 起	昭和27年10月28日生	昭和50年4月 当社入社 平成20年3月 特殊鋼本部長 平成23年5月 取締役就任(現) 平成25年5月 大阪店長(現)	(注) 3	2
取締役	情報・電機事業 担当 エレクトロニク ス本部長	平野 隆 裕	昭和35年6月4日生	昭和59年4月 当社入社 平成23年5月 エレクトロニクス本部長(現) 平成24年5月 取締役就任(現) 平成25年5月 情報・電機事業担当(現)	(注) 3	2
取締役	人事総務部門 副担当	右田 勝 久	昭和36年1月28日生	平成13年11月 当社入社 平成24年3月 人事総務本部長 平成24年5月 取締役就任(現)、関連事業部担当 平成27年5月 人事総務部門副担当(現)	(注) 3	2
取締役	化成品本部長	矢島 昇	昭和31年6月3日生	昭和56年4月 当社入社 平成20年5月 中部合成樹脂工業(株) 取締役社長 平成22年3月 化成品本部長(現) 平成25年5月 取締役就任(現)	(注) 3	2
取締役	メカトロ本部長	坂田 光 徳	昭和34年6月14日生	昭和58年4月 当社入社 平成24年3月 メカトロ本部長(現) 平成26年5月 取締役就任(現)	(注) 3	2
取締役	鉄鋼本部 副本部長	北村 一 正	昭和31年10月11日生	昭和56年4月 当社入社 平成23年3月 鉄鋼本部副本部長(現) 平成27年5月 取締役就任(現)	(注) 3	2
取締役	人事総務本部長	内田 和 輝	昭和38年2月21日生	昭和60年4月 当社入社 平成22年3月 名古屋メカトロ部長 平成25年3月 名古屋人事総務部長(現) 平成27年5月 取締役就任(現)、人事総務本部長 (現)	(注) 3	2
取締役	経理本部長	河村 元 志	昭和37年8月16日生	平成11年2月 当社入社 平成20年5月 東京本店経理部長 平成27年5月 取締役就任(現)、経理本部長(現)	(注) 3	2
取締役		島田 晴 雄	昭和18年2月21日生	昭和57年4月 慶應義塾大学経済学部教授 平成7年5月 当社監査役就任 平成19年4月 千葉商科大学学長(現) 平成27年5月 当社取締役就任(現)	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		岩田 憲二	昭和26年11月5日生	昭和49年4月 (株)東海銀行(現:株三菱東京UFJ銀行) 入行 平成12年4月 同行執行役員 平成14年1月 当社顧問 平成14年5月 常勤監査役就任 平成20年5月 取締役就任、経理本部長 平成24年5月 常勤監査役就任(現)	(注) 4	3
常勤監査役		石田 邦雄	昭和24年5月22日生	昭和47年4月 当社入社 平成20年3月 審査法務本部長 平成24年5月 常勤監査役就任(現)	(注) 4	2
監査役		上田 純子	昭和34年8月14日生	平成19年4月 静岡大学大学院法務研究科教授 平成20年5月 当社監査役就任(現) 平成22年4月 九州大学大学院法学研究院教授(現)	(注) 4	—
監査役		小栗 宏次	昭和35年8月3日生	平成10年4月 愛知県立大学情報科学部教授(現) 平成14年4月 同大学大学院情報科学研究科教授(現) 平成20年5月 当社監査役就任(現)	(注) 4	—
監査役		中川 由賀	昭和47年12月8日生	平成11年4月 検事任官 東京地方検察庁 平成26年4月 中京大学法科大学院教授(現) 平成27年3月 弁護士(現) 平成27年5月 当社監査役就任(現)	(注) 5	—
計						541

- (注) 1 取締役 島田晴雄は、社外取締役であります。
- 2 監査役 上田純子、小栗宏次及び中川由賀は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成27年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役の任期は、平成24年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 補欠選任として平成27年2月期に係る定時株主総会終結の時から就任したため、任期は、当社定款により、退任した監査役の任期満了の時である平成28年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 常務取締役 岡谷健広は、取締役社長 岡谷篤一の長男であります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、商社としての社会的責任を自覚し、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス及びリスク管理を経営の重要な課題と位置付けております。社員一人一人の行動が当社への信頼を生み出し持続的な成長をもたらす重要な要素と認識し、より高い倫理観に根ざした事業活動を行う企業風土の構築を目指しております。

これらを実現するため、以下の施策の継続的な充実・強化を図りながら、取引先・株主・社員・社会に利益をもたらすべく、企業価値を高める活動を実践しております。

(コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況)

#### (1) 企業統治の概要

当社は監査役制度による経営管理体制を基本とし、以下のとおりのガバナンス体制を採用しております。

##### ① 取締役会

取締役会は毎月1回開催することを原則とし、必要に応じて臨時取締役会を開催し、経営に関する重要事項を決定するとともに、取締役の業務執行状況を監督しております。

取締役会の員数については、定款で20名以内とする旨定めており、現在、取締役会は18名の取締役（うち1名は社外取締役）で構成されております。取締役選任にあたっては、適任と思われる人材を社内外問わず選定しております。

##### ② 常務会

常務会は取締役の職務執行の効率化・意思決定の迅速化を目的として、役付取締役全員、各(本)店長及び常務会が任命する取締役から構成され、原則毎週1回開催しておりますが、必要に応じて臨時常務会を開催し、経営上の重要課題の審議を行っております。

##### ③ 監査役会

監査役会は、現在、5名の監査役（うち3名は社外監査役）で構成され、取締役の職務執行を厳正に監査しております。

#### (2) 企業統治の体制を採用する理由

当社は監査役制度による経営管理体制を継続しており、監査役会は会計監査人と連携し十分に経営監視機能を果たしております。また、当社の監査役5名のうち3名が社外監査役であり、経営から独立した監視体制が整っております。

また、平成27年5月28日開催の株主総会において社外取締役1名を選任し、業務執行の監督強化を図っております。

### (3) 内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

#### ① 内部統制システム整備の基本方針

当社は、平成18年5月25日開催の取締役会において、業務の適正を確保するための体制について決議いたしました。また、平成26年4月24日開催の取締役会において一部変更の決議をいたしました。その決議の内容は次のとおりであります。

#### **1. 取締役・使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制**

- (1) 当社は、取締役、社員を含めた企業としての果たすべき役割を定めた岡谷鋼機企業行動憲章において関係法令・国際ルールへの遵守をうたっており、その周知徹底を図っている。また社員に対しては、岡谷鋼機社員行動規程を定め、各人がこれを日常的に実践することおよび社内諸規程の遵守を継続的に啓発する。
- (2) コンプライアンス推進のため、コンプライアンス・リスク管理委員会を中心とした体制の整備を進めるとともに、関係部署による教育・研修を通じてコンプライアンス意識の向上を図る。
- (3) 内部監査部門として、社長直轄組織である監査部を設置し、内部監査規程に従い、監査を実施し、監査結果を社長に報告する。
- (4) また、当社は監査役会設置会社であり、取締役の職務執行については法令・定款および監査役会規程に従い監査役会が定める監査方針・業務分担等により、各監査役が監査を行う。
- (5) 金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制については、社内に専門組織を設置し、財務報告に係る内部統制の基本方針に従い、内部統制の整備・運用・評価と継続的改善を行う。
- (6) 岡谷鋼機企業行動憲章、法令、社内規程およびその他コンプライアンスに著しく反する行為の社内通報システムとして、コンプライアンス・リスク管理委員会の中に企業倫理相談窓口を設置し、通報に対応する。
- (7) 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは一切の関係を持たない。

#### **2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制**

- (1) 取締役会議事録は取締役会規程に基づき事務局が適切かつ確実に保存・管理し、10年間備えおくものとする。
- (2) また、その他取締役の職務の執行に係る文書については、文書管理規程に基づき適正な保存・管理を図るとともに、取締役・監査役が必要に応じ閲覧できる体制とする。

#### **3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制**

- (1) コンプライアンス・リスク管理委員会を中心に各専門委員会・組織とも連携し、企業を取り巻く様々なリスクに対応する体制とする。
- (2) 当社は経営成績、財政状態、株価等に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクとして以下の①～⑬のリスクを認識し、コンプライアンス・リスク管理委員会にてその対応部署・組織を定めるとともに、毎年リスクの見直しを行う。
  - ①経済環境が変化するリスク
  - ②商品市況の変動によるリスク
  - ③為替変動によるリスク
  - ④金利変動によるリスク
  - ⑤株価変動によるリスク
  - ⑥取引先の信用リスク
  - ⑦事業投資リスク
  - ⑧カントリーリスク
  - ⑨品質保証によるリスク
  - ⑩法的規制によるリスク
  - ⑪情報システム・情報セキュリティに関するリスク
  - ⑫自然災害等に係わるリスク
  - ⑬役員・社員の内部統制によるリスク
- (3) 対応部署・組織は、必要に応じ規程・細則・要領の新設・改廃や教育・啓蒙活動を行い、リスクが顕在化した場合の影響を最小限にとどめる体制を整える。
- (4) 不測の緊急事態が発生した場合には、当該部署責任者は常務会・取締役会およびコンプライアンス・リスク管理委員会の委員長もしくは委員へ報告するとともに、対策を検討し実行する。

#### **4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**

- (1) 取締役会については、法令・定款の他取締役会規程に基づきその適切な運営を確保する。
- (2) 取締役会は毎月1回開催することを原則とし、必要に応じて臨時に開催の上、会社の業務執行の決定や取締役の職務執行の監督等を行う。
- (3) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制として、取締役会の他に意思決定の迅速化を目的とする常務会を設置する。  
常務会は、常務会規程に基づき役付取締役全員、各（本）店長および常務会が任命する取締役から構成され、原則として週1回開催し、経営上の重要課題の審議を行う。
- (4) 取締役会の決定に基づく業務執行については、組織・職制規程、業務分掌規程および職務権限規程を定め、それぞれの業務の担当区分・責任者・執行手続きを明確にする。

#### **5. 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制**

- (1) 子会社の管理については、関係会社管理・運営規程を定めており、その中で子会社毎に管理主管部署、管理統括部署および管理支援部署を定め、それぞれの立場にて統括・管理・支援・指導を行う。
- (2) 子会社の経営に関する重要事項については、職務権限規程、関係会社管理・運営規程に基づき、管理主管部署が企画本部関連事業部と連携して当社への申請・報告を行う。
- (3) 子会社については、定期的に社長会議や代表者会議等を開催し、経営課題等の討議を行うとともに相互連携の強化や情報の共有化を図る。また、監査体制として、子会社監査役監査の他、業務分掌規程に基づき監査部による監査を実施し、業務の適正化の確保・向上に努める。
- (4) 当社監査役はその職務を行うため必要があるときは、国内・海外の子会社の調査を行う。
- (5) 子会社から当社への相談窓口は企画本部関連事業部とする。

#### **6. 監査役を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項**

- (1) 監査役から要求があった場合、監査役の職務を補助すべき使用人を置く。
- (2) 監査役の職務を補助すべき使用人の人事異動、人事考課および賞罰などについては、監査役会と事前に協議する。

#### **7. 取締役および使用人が監査役に報告するための体制その他監査役への報告に関する体制および監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制**

- (1) 取締役および使用人は業務執行に際し、職務権限規程に従い重要事項については監査役に報告しなければならない。
- (2) 下記の事象が発生した場合は、関係取締役および当該部署責任者は監査役へ報告する。
  - ①当社および当社グループに重要な損害を及ぼすおそれのある事実
  - ②不正行為ならびに法令・定款に違反する重大な事実
  - ③企業倫理相談窓口の相談内容の内コンプライアンス・リスク管理委員会が重要と判断したもの

前記に関わらず、監査役はいつでも必要に応じて、取締役および使用人に報告を求めることができる。

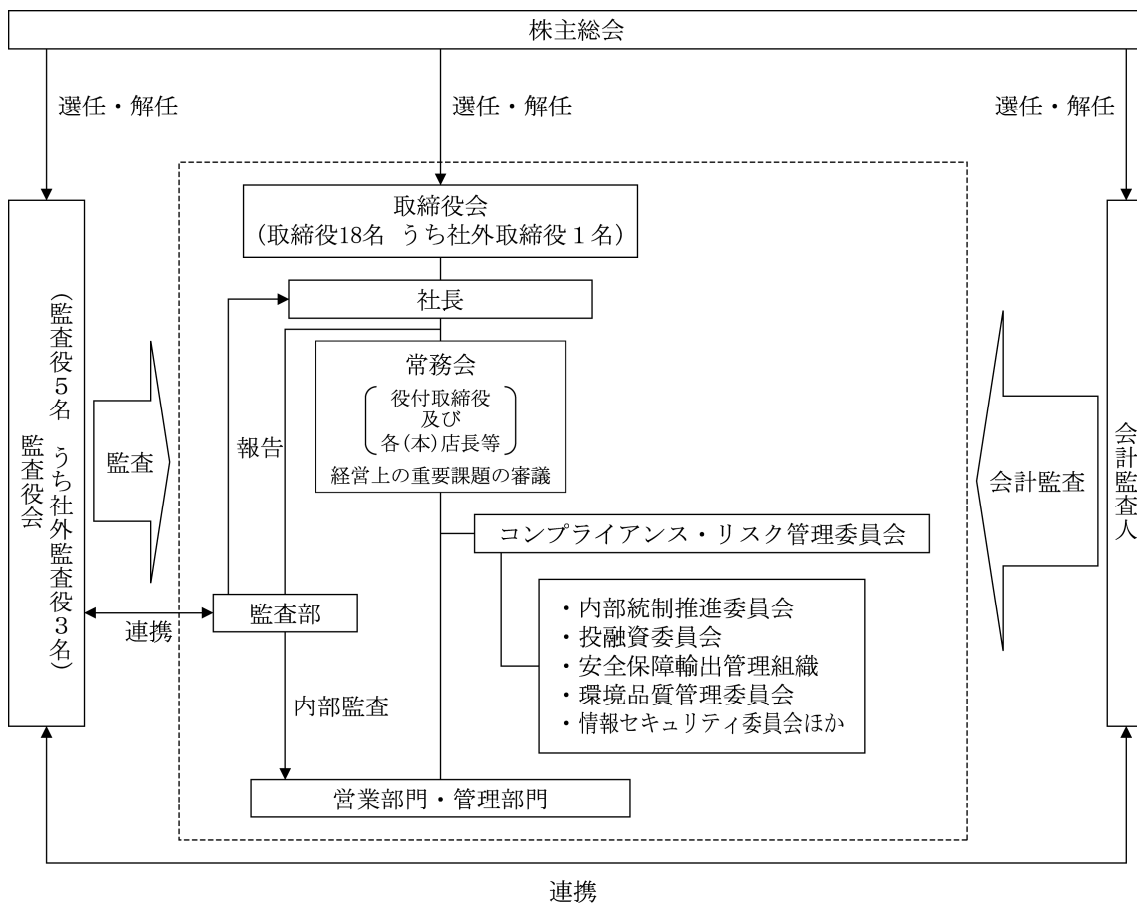
- (3) 監査役および監査部は、相互に適時適切な情報伝達と意見交換を行い、適正かつ効率的な監査を行う。
- (4) 監査役は監査結果等について直接代表取締役社長に報告し、意見交換等を行う。

② コンプライアンス・リスク管理委員会並びに各専門委員会・組織の内容

事業に関連する様々なリスクに適切に対応するために、下記専門委員会及び組織を設置し、相互に連携しながらそれぞれ目的に従った活動・提案を行っております。

コンプライアンス・リスク管理委員会	「岡谷鋼機企業行動憲章」に基づき、コンプライアンスの周知徹底とリスク管理を行うための委員会。当社の経営成績、財政状態、株価などに重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクを認識し、その対応部署・組織を定めるとともに、毎年リスクの見直しを行う。
内部統制推進委員会	財務報告に係る内部統制の整備・運用・評価の支援を行うための委員会。また、評価の結果、発見された不備の報告を受け、是正のための支援を行う。
投融資委員会	一定金額以上の投融資案件について、常務会付議前に各専門分野から検討を加え、付議すべき案件を決定するための委員会。
安全保障輸出管理組織	「外国為替及び外国貿易法」等輸出関連法規に規制されている貨物の輸出及び技術の提供について、前記法規に違反した取引を防止するための組織。
環境品質管理委員会	地球環境の保全と事業活動の密接な関わりを認識し、商社として社会に貢献できる活動を行うとともに、経営品質を継続的に改善することにより顧客の満足度を高める活動をするための委員会。
情報セキュリティ委員会	当社の情報資産を保護・管理し、情報セキュリティを維持していくための委員会。

<内部統制システム及びリスク管理体制の模式図>





#### (4)内部監査、監査役監査、会計監査の状況

##### ① 内部監査

内部監査部門として、社長直轄組織である監査部（構成人員7名）を設置し、内部監査規程に従い監査を実施し、監査結果を取締役社長に報告しております。

##### ② 監査役監査

法令・定款及び監査役会規程に従い監査役会が定める監査方針・業務分担により、各監査役が監査を行っております。監査結果については、直接取締役社長に報告し意見交換などを行っております。なお、常勤監査役 岩田憲二氏は金融機関及び当社経理部門における長年の経験があり、常勤監査役 石田 邦雄氏は当社経理・審査部門における長年の経験があり、両氏は財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

また、内部監査部門である監査部と相互に適時適切な情報伝達と意見交換を行い、適正かつ効率的な監査を行っております。会計監査人との連携につきましては、定期的な会合を持ち、意見交換・情報の聴取を行うとともに、適宜、必要な報告を求めるなど連携を密にして協力しております。

##### ③ 会計監査

会計監査人である有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結し、定期監査のほか会計上の課題について随時確認を行い、適正な会計処理に努めております。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名等
指定有限責任社員・業務執行社員 岡野 英生	有限責任 あずさ監査法人
指定有限責任社員・業務執行社員 奥谷 浩之	有限責任 あずさ監査法人
指定有限責任社員・業務執行社員 時々輪 彰久	有限責任 あずさ監査法人

(注) 上記のほか当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士20名、その他13名であります。継続監査年数につきましては、全員7年以内であるため記載しておりません。

#### (5)社外取締役及び社外監査役

##### ① 社外取締役

当社の社外取締役である島田晴雄氏は、名古屋証券取引所に対し、独立役員として届け出ており、社外取締役と当社との間に、人的関係・資本的关系・取引関係・その他の利害関係はありません。

社外取締役の選任にあたって、独立性に関する基準又は方針については定めておりませんが、社外取締役には、豊富な知識と経験を有し、経営全般に対して独立的な立場から幅広く貴重な意見・助言を期待できる者を選任しております。

##### ② 社外監査役

当社の社外監査役である上田純子、小栗宏次、中川由賀の各氏は、名古屋証券取引所に対し、独立役員として届け出ており、各社外監査役と当社との間に、人的関係・資本的关系・取引関係・その他の利害関係はありません。

社外監査役の選任にあたって、独立性に関する基準又は方針については定めておりませんが、社外監査役には、豊富な知識と経験を有し、経営全般に対して独立的な立場から適切な監督機能を果たしていただける者を選任しております。また、監査役会で定めた監査の基本方針、職務分担等に従って監査を実施し、監査結果の報告、重要な情報の提供、意見の交換などを行い、十分に監査機能を発揮しております。

(6) 取締役及び監査役に対する報酬等の内容

① 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる役員 の員数 (名)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	305	259	—	46	17
監査役 (社外監査役を除く)	37	33	—	4	2
社外役員	21	17	—	4	3

- (注) 1 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。  
2 上記の報酬等の額には、当事業年度に係る役員退職慰労引当金増加額が含まれております。  
3 上記の報酬等の額には、平成26年5月22日開催の第78期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名に対する当事業年度に係る報酬等を含んでおります。  
4 上記のほか、平成26年5月22日開催の定時株主総会決議に基づき、役員退職慰労金を下記のとおり支給しております。  
    退任取締役1名 41百万円  
なお、上記役員退職慰労金には、過年度の報酬等の総額に含めた役員退職慰労引当金増加額が含まれております。

② 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

③ 役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

役員報酬のうち、基本報酬の額は、役位別に算出した額を基準とし、会社の業績、経済情勢、従業員給与等を総合的に勘案して個人別に算定しております。

また、退職慰労金の額は、基本報酬額及び在任年数等を勘案して、規程に基づき個人別に算定しております。

なお、基本報酬については、株主総会で決議された報酬総額の範囲内で、退職慰労金については、株主総会での決議を経たうえで、取締役については取締役会の決議により、監査役については監査役の協議により決定しております。

(7) 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外取締役及び社外監査役とは、会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は法令の定める最低責任限度額であります。

(8) 取締役の選解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

(9) 株主総会決議事項を取締役会で決議することができるとした事項

① 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。

② 取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を有効に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）による会社法第423条第1項の損害賠償責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除することができる旨定款に定めております。

③ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年8月31日を基準日として中間配当をすることができる旨定款に定めております。

(10) 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

(11) 株式の保有状況

① 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数	280銘柄
貸借対照表計上額の合計額	127,089百万円

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	6,365,373	37,167	取引関係の維持・強化
新日鐵住金(株)	25,000,000	7,425	取引関係の維持・強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	7,329,000	4,302	取引関係の維持・強化
大同特殊鋼(株)	6,962,628	3,251	取引関係の維持・強化
オークマ(株)	3,520,651	3,224	取引関係の維持・強化
(株)不二越	4,850,281	3,128	取引関係の維持・強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	5,707,000	2,722	取引関係の維持・強化
東邦瓦斯(株)	3,785,300	1,953	取引関係の維持・強化
ブラザー工業(株)	1,246,504	1,809	取引関係の維持・強化
三菱UFJリース(株)	3,387,700	1,758	取引関係の維持・強化
(株)小糸製作所	850,437	1,633	取引関係の維持・強化
東海旅客鉄道(株)	121,400	1,436	取引関係の維持・強化
スズキ(株)	511,000	1,395	取引関係の維持・強化
ジェイ エフ イー ホールディングス(株)	648,175	1,341	取引関係の維持・強化
日本碍子(株)	569,127	1,252	取引関係の維持・強化
東京瓦斯(株)	2,116,520	1,079	取引関係の維持・強化
いすゞ自動車(株)	1,720,874	1,065	取引関係の維持・強化
(株)クボタ	693,000	986	取引関係の維持・強化
(株)IHI	1,875,000	871	取引関係の維持・強化
東北特殊鋼(株)	752,000	842	取引関係の維持・強化
(株)デンソー	136,800	744	取引関係の維持・強化
NTN(株)	1,921,000	739	取引関係の維持・強化
パナソニック(株)	560,050	714	取引関係の維持・強化
丸一鋼管(株)	218,538	621	取引関係の維持・強化
三菱重工業(株)	870,000	543	取引関係の維持・強化
(株)日立製作所	633,448	508	取引関係の維持・強化
近畿日本鉄道(株)	1,163,531	429	取引関係の維持・強化
三井金属鉱業(株)	1,462,500	390	取引関係の維持・強化
(株)愛知銀行	84,600	387	取引関係の維持・強化
(株)椿本チエイン	433,000	376	取引関係の維持・強化
高砂熱学工業(株)	364,000	375	取引関係の維持・強化
愛知製鋼(株)	905,000	370	取引関係の維持・強化
日立金属(株)	234,312	355	取引関係の維持・強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	1,692,240	353	取引関係の維持・強化

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
中部鋼鈹(株)	800,000	344	取引関係の維持・強化
オーエスジー(株)	165,990	311	取引関係の維持・強化
昭和電工(株)	1,983,899	291	取引関係の維持・強化
日本車輛製造(株)	616,000	290	取引関係の維持・強化
愛知時計電機(株)	1,000,000	289	取引関係の維持・強化
ニチコン(株)	339,868	284	取引関係の維持・強化
(株)オータケ	157,541	278	取引関係の維持・強化
三菱電機(株)	230,000	277	取引関係の維持・強化
共英製鋼(株)	135,000	259	取引関係の維持・強化
新東工業(株)	327,000	256	取引関係の維持・強化
(株)シマノ	26,300	242	取引関係の維持・強化
(株)ティラド	811,600	235	取引関係の維持・強化
(株)カネカ	350,000	232	取引関係の維持・強化
東京製鐵(株)	441,400	228	取引関係の維持・強化
前澤化成工業(株)	206,400	213	取引関係の維持・強化
日産自動車(株)	229,200	208	取引関係の維持・強化
(株)ジェイテクト	120,700	204	取引関係の維持・強化
中部電力(株)	160,288	201	取引関係の維持・強化
名港海運(株)	181,000	190	取引関係の維持・強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	40,700	184	取引関係の維持・強化
(株)淀川製鋼所	412,500	174	取引関係の維持・強化
(株)村上開明堂	118,417	171	取引関係の維持・強化
日新製鋼ホールディングス(株)	166,560	166	取引関係の維持・強化
三井造船(株)	780,000	163	取引関係の維持・強化
旭精機工業(株)	846,000	157	取引関係の維持・強化
トピー工業(株)	808,780	140	取引関係の維持・強化
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	151,000	130	取引関係の維持・強化
(株)名古屋銀行	358,000	122	取引関係の維持・強化
(株)奥村組	275,268	120	取引関係の維持・強化
名古屋鉄道(株)	377,486	116	取引関係の維持・強化
カヤバ工業(株)	238,000	106	取引関係の維持・強化
(株)りそなホールディングス	200,000	106	取引関係の維持・強化
(株)アイ・テック	98,000	100	取引関係の維持・強化
(株)村田製作所	10,402	100	取引関係の維持・強化
大阪製鐵(株)	55,700	99	取引関係の維持・強化
(株)小松製作所	46,053	98	取引関係の維持・強化
アイホン(株)	63,300	96	取引関係の維持・強化

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	2,100,000	12,261	議決権行使権限(退職給付 信託)
東京瓦斯(株)	3,000,000	1,530	議決権行使権限(退職給付 信託)
スズキ(株)	460,000	1,256	議決権行使権限(退職給付 信託)

(注) 1 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しております。

2 みなし保有株式は、退職給付信託として信託設定したものであり、当社の貸借対照表上には計上しておりません。なお、みなし保有株式の「貸借対照表計上額」欄には、事業年度末日におけるみなし保有株式の時価に議決権行使権限の対象となる株式数を乗じて得た額を記載しております。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	6,365,373	51,324	取引関係の維持・強化
新日鐵住金(株)	25,000,000	7,945	取引関係の維持・強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	7,329,000	5,699	取引関係の維持・強化
オークマ(株)	3,531,318	4,071	取引関係の維持・強化
大同特殊鋼(株)	6,962,628	3,794	取引関係の維持・強化
(株)不二越	4,850,281	3,298	取引関係の維持・強化
(株)小糸製作所	850,437	3,257	取引関係の維持・強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	5,707,000	2,827	取引関係の維持・強化
東海旅客鉄道(株)	121,400	2,701	取引関係の維持・強化
東邦瓦斯(株)	3,785,300	2,547	取引関係の維持・強化
ブラザー工業(株)	1,247,906	2,515	取引関係の維持・強化
三菱UFJリース(株)	3,387,700	1,958	取引関係の維持・強化
ジェイ エフ イー ホールディングス(株)	648,175	1,936	取引関係の維持・強化
スズキ(株)	511,000	1,931	取引関係の維持・強化
東京瓦斯(株)	2,116,520	1,541	取引関係の維持・強化
いすゞ自動車(株)	864,087	1,500	取引関係の維持・強化
(株)クボタ	693,000	1,347	取引関係の維持・強化
日本碍子(株)	569,127	1,326	取引関係の維持・強化
NTN(株)	1,921,000	1,148	取引関係の維持・強化
東北特殊鋼(株)	752,000	1,109	取引関係の維持・強化
(株)IHI	1,875,000	1,044	取引関係の維持・強化
パナソニック(株)	560,050	837	取引関係の維持・強化

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)デンソー	136,800	768	取引関係の維持・強化
ニチコン(株)	678,449	740	取引関係の維持・強化
丸一鋼管(株)	218,538	622	取引関係の維持・強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	2,752,690	606	取引関係の維持・強化
三菱重工業(株)	870,000	576	取引関係の維持・強化
(株)愛知銀行	84,600	550	取引関係の維持・強化
近畿日本鉄道(株)	1,163,531	539	取引関係の維持・強化
愛知製鋼(株)	905,000	532	取引関係の維持・強化
高砂熱学工業(株)	364,000	530	取引関係の維持・強化
(株)日立製作所	633,448	518	取引関係の維持・強化
(株)シマノ	26,300	473	取引関係の維持・強化
日立金属(株)	234,312	451	取引関係の維持・強化
中部鋼鈹(株)	800,000	428	取引関係の維持・強化
(株)椿本チエイン	433,000	417	取引関係の維持・強化
三井金属鉱業(株)	1,462,500	397	取引関係の維持・強化
東京製鐵(株)	441,400	392	取引関係の維持・強化
オーエスジー(株)	165,990	381	取引関係の維持・強化
昭和電工(株)	2,014,627	324	取引関係の維持・強化
愛知時計電機(株)	1,000,000	324	取引関係の維持・強化
三菱電機(株)	230,000	322	取引関係の維持・強化
日産自動車(株)	229,200	289	取引関係の維持・強化
共英製鋼(株)	135,000	281	取引関係の維持・強化
新東工業(株)	327,000	280	取引関係の維持・強化
日新製鋼(株)	166,560	277	取引関係の維持・強化
(株)カネカ	350,000	277	取引関係の維持・強化
(株)オータケ	158,394	275	取引関係の維持・強化
前澤化成工業(株)	206,400	267	取引関係の維持・強化
旭精機工業(株)	846,000	242	取引関係の維持・強化
トピー工業(株)	808,780	241	取引関係の維持・強化
中部電力(株)	160,288	236	取引関係の維持・強化
(株)村上開明堂	119,015	229	取引関係の維持・強化
日本車輛製造(株)	616,000	229	取引関係の維持・強化
(株)ジェイテクト	120,700	226	取引関係の維持・強化
(株)ティラド	811,600	205	取引関係の維持・強化
(株)淀川製鋼所	412,500	196	取引関係の維持・強化

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
㈱三井住友フィナンシャルグループ	40,700	193	取引関係の維持・強化
名古屋鉄道㈱	377,486	191	取引関係の維持・強化
名港海運㈱	181,000	186	取引関係の維持・強化
㈱名古屋銀行	358,000	163	取引関係の維持・強化
㈱奥村組	275,268	163	取引関係の維持・強化
三井造船㈱	780,000	163	取引関係の維持・強化
㈱村田製作所	10,634	156	取引関係の維持・強化
日立化成工業㈱	53,200	140	取引関係の維持・強化
㈱りそなホールディングス	200,000	134	取引関係の維持・強化
東海東京フィナンシャル・ホールディングス ㈱	151,000	132	取引関係の維持・強化
㈱ハイレックスコーポレーション	34,200	130	取引関係の維持・強化
大阪製鐵㈱	55,700	119	取引関係の維持・強化
アイホン㈱	63,300	117	取引関係の維持・強化
㈱アイ・テック	98,000	116	取引関係の維持・強化
㈱小松製作所	46,053	114	取引関係の維持・強化
川田テクノロジーズ㈱	28,550	114	取引関係の維持・強化
カヤバ工業㈱	238,000	109	取引関係の維持・強化
東亜合成㈱	200,250	108	取引関係の維持・強化
大同メタル工業㈱	91,000	108	取引関係の維持・強化
㈱大紀アルミニウム工業所	304,950	104	取引関係の維持・強化
㈱ダイジェット工業	436,856	99	取引関係の維持・強化
日東工業㈱	45,000	96	取引関係の維持・強化
エア・ウォーター㈱	43,732	91	取引関係の維持・強化



みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	2,100,000	16,932	議決権行使権限(退職給付 信託)
東京瓦斯(株)	3,000,000	2,184	議決権行使権限(退職給付 信託)
スズキ(株)	460,000	1,738	議決権行使権限(退職給付 信託)

(注) 1 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

2 みなし保有株式は、退職給付信託として信託設定したものであり、当社の貸借対照表上には計上しておりません。なお、みなし保有株式の「貸借対照表計上額」欄には、事業年度末日におけるみなし保有株式の時価に議決権行使権限の対象となる株式数を乗じて得た額を記載しております。

③ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	39	—	39	1
連結子会社	16	—	16	1
合計	55	—	55	2

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社の一部の連結子会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMGのメンバーファームに対して、監査証明業務に基づく報酬として2百万円支払っております。

当連結会計年度

当社の一部の連結子会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMGのメンバーファームに対して、監査証明業務に基づく報酬として2百万円支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

監査公認会計士等の当社に対する非監査業務の内容は、アドバイザー業務であります。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度（平成26年3月1日から平成27年2月28日まで）の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当事業年度（平成26年3月1日から平成27年2月28日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成26年3月1日から平成27年2月28日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成26年3月1日から平成27年2月28日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更についての確に対応することのできる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しており、また、会計基準設定主体等の行う研修に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,486	13,450
受取手形及び売掛金	183,660	※6 205,324
商品及び製品	39,406	51,726
仕掛品	475	464
原材料及び貯蔵品	1,568	1,803
繰延税金資産	831	1,026
その他	8,401	9,309
貸倒引当金	△539	△390
流動資産合計	245,289	282,715
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	18,727	18,085
機械装置及び運搬具（純額）	3,551	3,796
土地	15,759	16,510
建設仮勘定	586	786
その他	1,617	1,665
有形固定資産合計	※1,3 40,243	※1,3 40,845
無形固定資産	1,015	2,084
投資その他の資産		
投資有価証券	※2,3 106,221	※2,3 136,705
長期貸付金	184	147
退職給付に係る資産	—	16,740
繰延税金資産	304	270
その他	13,622	5,596
貸倒引当金	△400	△382
投資その他の資産合計	119,932	159,077
固定資産合計	161,191	202,007
資産合計	406,481	484,722

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	109,340	※6 128,117
短期借入金	※3 101,187	※3 101,593
未払法人税等	2,819	2,885
繰延税金負債	0	0
賞与引当金	996	1,187
その他	7,336	8,592
流動負債合計	221,680	242,376
固定負債		
長期借入金	※3 18,139	※3 23,515
繰延税金負債	26,217	39,591
退職給付引当金	1,901	—
役員退職慰労引当金	670	721
退職給付に係る負債	—	1,878
その他	3,223	3,444
固定負債合計	50,153	69,151
負債合計	271,833	311,527
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	9,128	9,128
資本剰余金	7,798	7,798
利益剰余金	69,074	80,100
自己株式	△449	△452
株主資本合計	85,551	96,574
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,461	60,250
繰延ヘッジ損益	△9	15
為替換算調整勘定	15	3,023
退職給付に係る調整累計額	—	5,058
その他の包括利益累計額合計	41,468	68,348
少数株主持分	7,627	8,272
純資産合計	134,647	173,195
負債純資産合計	406,481	484,722

## ② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 至	平成25年3月1日 平成26年2月28日)	(自 至	平成26年3月1日 平成27年2月28日)
売上高		744,403		816,828
売上原価		※1 695,014		※1 762,908
売上総利益		49,389		53,920
販売費及び一般管理費				
運送費及び保管費		4,371		4,706
貸倒引当金繰入額		161		43
報酬及び給料手当		12,867		13,600
賞与		2,340		2,611
賞与引当金繰入額		871		1,028
退職給付費用		346		158
役員退職慰労引当金繰入額		103		110
福利厚生費		2,673		2,943
減価償却費		1,704		1,642
借地借家料		1,587		1,752
事務機械費		542		619
旅費交通費及び通信費		2,261		2,364
その他		5,536		6,142
販売費及び一般管理費合計		35,369		37,724
営業利益		14,020		16,195
営業外収益				
受取利息		1,255		1,329
受取配当金		1,835		2,455
持分法による投資利益		1,086		1,033
その他		870		1,116
営業外収益合計		5,047		5,935
営業外費用				
支払利息		1,710		1,743
手形売却損		43		37
為替差損		180		515
その他		382		307
営業外費用合計		2,316		2,605
経常利益		16,750		19,525

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
特別利益		
固定資産売却益	※2 27	※2 181
投資有価証券売却益	11	74
その他	0	2
特別利益合計	39	257
特別損失		
固定資産処分損	※3 34	※3 204
減損損失	—	※4 118
投資有価証券売却損	—	90
投資有価証券評価損	4	2
出資金評価損	80	2
持分変動損失	169	—
その他	12	—
特別損失合計	301	419
税金等調整前当期純利益	16,488	19,364
法人税、住民税及び事業税	5,743	6,396
法人税等調整額	△7	1
法人税等合計	5,735	6,398
少数株主損益調整前当期純利益	10,753	12,966
少数株主利益	510	494
当期純利益	10,242	12,471

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	自	平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	自	平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
少数株主損益調整前当期純利益		10,753		12,966
その他の包括利益				
その他有価証券評価差額金		11,760		18,840
繰延ヘッジ損益		△8		25
為替換算調整勘定		2,754		2,532
持分法適用会社に対する持分相当額		691		691
その他の包括利益合計		※ 15,197		※ 22,090
包括利益		25,951		35,056
(内訳)				
親会社株主に係る包括利益		25,213		34,292
少数株主に係る包括利益		737		763



③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,128	7,798	60,036	△446	76,516
当期変動額					
剰余金の配当			△1,204		△1,204
当期純利益			10,242		10,242
自己株式の取得				△2	△2
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	9,038	△2	9,035
当期末残高	9,128	7,798	69,074	△449	85,551

	その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	29,756	△1	△3,258	—	26,496	7,233	110,246
当期変動額							
剰余金の配当							△1,204
当期純利益							10,242
自己株式の取得							△2
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	11,705	△8	3,274	—	14,971	394	15,365
当期変動額合計	11,705	△8	3,274	—	14,971	394	24,401
当期末残高	41,461	△9	15	—	41,468	7,627	134,647

当連結会計年度(自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,128	7,798	69,074	△449	85,551
当期変動額					
剰余金の配当			△1,445		△1,445
当期純利益			12,471		12,471
自己株式の取得				△3	△3
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	11,026	△3	11,022
当期末残高	9,128	7,798	80,100	△452	96,574

	その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	41,461	△9	15	—	41,468	7,627	134,647
当期変動額							
剰余金の配当							△1,445
当期純利益							12,471
自己株式の取得							△3
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	18,788	25	3,007	5,058	26,880	644	27,524
当期変動額合計	18,788	25	3,007	5,058	26,880	644	38,547
当期末残高	60,250	15	3,023	5,058	68,348	8,272	173,195

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：円)

	前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	16,488	19,364
減価償却費	3,788	3,850
減損損失	—	118
投資有価証券売却損益 (△は益)	△11	16
投資有価証券評価損益 (△は益)	4	2
出資金評価損	80	2
有形固定資産除売却損益 (△は益)	7	23
受取利息及び受取配当金	△3,090	△3,785
支払利息	1,710	1,743
持分法による投資損益 (△は益)	△1,086	△1,033
売上債権の増減額 (△は増加)	△21,054	△19,169
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△8	△10,727
仕入債務の増減額 (△は減少)	12,872	16,298
前渡金の増減額 (△は増加)	3,349	△559
前受金の増減額 (△は減少)	△4,377	661
その他	746	795
小計	9,419	7,600
利息及び配当金の受取額	3,596	4,717
利息の支払額	△1,727	△1,766
法人税等の支払額	△5,276	△6,336
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,011	4,214
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△80	△1,713
有形固定資産の取得による支出	△1,935	△3,279
有形固定資産の売却による収入	298	453
投資有価証券の取得による支出	△238	△730
投資有価証券の売却による収入	143	305
子会社株式の取得による支出	△9	△1
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	59
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△67	—
貸付けによる支出	△2	△15
貸付金の回収による収入	73	77
その他	155	△221
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,662	△5,067
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2,909	2,115
長期借入れによる収入	8,480	9,187
長期借入金の返済による支出	△8,619	△9,964
自己株式の取得による支出	△2	△3
子会社の自己株式の取得による支出	△717	—
配当金の支払額	△1,204	△1,445
少数株主への配当金の支払額	△157	△159
その他	80	△40
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,050	△309
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,195	1,036
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	493	△126
現金及び現金同等物の期首残高	8,307	8,801
現金及び現金同等物の期末残高	8,801	8,675

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### (1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社 71社

全ての子会社を連結しており、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しております。

なお、当連結会計年度において、新規設立によりメキシコ岡谷鋼機会社を連結の範囲に含めております。また、株式の追加取得によりニシフミート㈱を連結の範囲に含めております。

### (2) 持分法の適用に関する事項

#### ① 持分法を適用した関連会社

持分法適用会社 15社

Siam Steel Service Center Public Co.,Ltd.、岩井岡谷マシナリー㈱、エイチオーエンジニアリング㈱ほか12社の関連会社について持分法を適用しております。

なお、当連結会計年度において、新規設立によりマキシマファーム㈱を持分法適用の範囲に含めております。

#### ② 持分法を適用しない関連会社の内主要な会社等の名称

サンサウス工業㈱

持分法非適用会社は、それぞれ連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日と連結決算日に差異のある子会社は次のとおりであります。

(決算日)

12月31日 カナダ岡谷鋼機会社、米国岡谷鋼機会社、Pearl & Okaya, Inc.、  
Okaya Shinnichi Corp. of America、International Mold Steel, Inc.、  
Mex Okaya-TN (U. S. A.), Inc.、メキシコ岡谷鋼機会社、  
Mex Okaya-TN, S. DE R. L. DE C. V.、ブラジル岡谷鋼機会社、欧州岡谷鋼機会社、  
Poland Tokai Okaya Manufacturing Sp. z o. o.、  
韓国岡谷鋼機会社、北京岡谷鋼機有限公司、天津岡谷鋼機有限公司、  
上海岡谷鋼機有限公司、上海岡谷精密機器有限公司、  
上海洛庫高電子有限公司、広州岡谷鋼機有限公司、  
香港岡谷鋼機有限公司、台湾岡谷鋼機有限公司、  
岡谷特殊鋼制品(大連)有限公司、浙江岡新制管有限公司、豪州岡谷鋼機会社、  
シンガポール岡谷鋼機会社、UAM Philippines, Inc.、  
UPI Real Estate, Inc.、PT. Artokaya Indonesia、  
Union Autoparts Manufacturing Co., Ltd.、サイアム スリヤ会社、  
Siam Okaya Chemical Co., Ltd.、SOMAT Co., Ltd.、  
タイ岡谷鋼機会社、インド岡谷鋼機会社、Vina Steel Center Co., Ltd.、  
ベトナム岡谷鋼機会社、NaITO Vietnam Co., Ltd.、インドネシア岡谷鋼機会社

連結財務諸表作成にあたっては、それぞれの決算財務諸表を使用しておりますが、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

(4) 会計処理基準に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

1 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブ

時価法

3 たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

主として移動平均法に基づく原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

1 有形固定資産(リース資産を除く)

主として定率法によっております。

ただし、当社及び国内連結子会社は、平成10年4月1日以降取得の建物(建物附属設備を除く。)について、定額法を採用しております。

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

2 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

3 リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成21年2月28日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

### ③ 重要な引当金の計上基準

#### 1 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権は個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### 2 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払に充てるため、主として支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

#### 3 役員退職慰労引当金

役員の退任により支出する役員退職慰労金に充てるため、内規に基づく期末要支払額を引当計上しております。

### ④ 退職給付に係る会計処理の方法

#### 1 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

#### 2 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、定額法（期間10年）により費用処理しております。

数理計算上の差異については、定額法（期間10年）によりそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

### ⑤ 連結財務諸表の作成の基礎となった連結会社の財務諸表の作成に当たって採用した重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

在外子会社等の資産及び負債、収益及び費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

### ⑥ 重要なヘッジ会計の方法

#### 1 ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、為替予約等についてヘッジ会計の要件を満たす場合は、振当処理によっております。また、金利スワップのうち特例処理の要件を満たすものについては、特例処理によっております。

#### 2 ヘッジ手段とヘッジ対象

外貨建取引の為替変動リスクに対して為替予約取引等を、借入金の金利変動リスクに対しては金利スワップ取引をヘッジ手段として用いております。

#### 3 ヘッジ方針

当社及び連結子会社は外貨建債権債務に係る将来の為替変動リスクと、借入金に係る金利変動リスクを負っております。そこで、これらのリスクをヘッジするために内規（「リスク管理方針」）に基づきデリバティブ取引を行っております。

#### 4 ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始時及びその後も継続して、キャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定することができるため、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

⑦ のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、発生日以後5年間で均等償却しております。

⑧ 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

⑨ その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準)

当連結会計年度末より「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を退職給付に係る負債に計上しております。なお、年金資産の額が退職給付債務を超える場合には退職給付に係る資産に計上しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る資産が16,740百万円、退職給付に係る負債が1,878百万円計上されております。また、その他の包括利益累計額が5,058百万円増加しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成28年2月期の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

- ・「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)
- ・「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)
- ・「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)
- ・「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成25年9月13日)
- ・「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)
- ・「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成25年9月13日)

(1) 概要

本会計基準等は、①子会社株式の追加取得等において支配が継続している場合の子会社に対する親会社の持分変動の取扱い、②取得関連費用の取扱い、③当期純利益の表示及び少数株主持分から非支配株主持分への変更、④暫定的な会計処理の取扱いを中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

平成29年2月期の期首より適用する予定です。なお、暫定的な会計処理の取扱いについては、平成29年2月期の期首以後実施される企業結合から適用する予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において未定です。



(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めておりました「為替差損」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた562百万円は、「為替差損」180百万円、「その他」382百万円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「定期預金の純増減額(△は増加)」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた74百万円は、「定期預金の純増減額(△は増加)」△80百万円、「その他」155百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
有形固定資産の減価償却累計額	48,038百万円	51,327百万円

※2 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
投資有価証券(株式)	4,692百万円	5,526百万円
出資金	1,529百万円	1,704百万円

※3 担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
土地	1,865百万円	1,865百万円
有形固定資産(土地を除く)	378百万円	398百万円
合計	2,244百万円	2,263百万円

(注) 上記のほか、以下の資産を仕入代金の支払保証のため、差し入れしております。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
投資有価証券	173百万円	185百万円

担保付債務

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
短期及び長期借入金	1,625百万円	1,426百万円

4 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
上海三国精密機械有限公司	144百万円	上海三国精密機械有限公司 165百万円

5 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
受取手形割引高	276百万円	400百万円
受取手形裏書譲渡高	642百万円	695百万円

※6 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
受取手形	—	4,900百万円
支払手形	—	7,526百万円

(連結損益計算書関係)

※1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額(△は戻入額)は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
売上原価	△55百万円	27百万円

※2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
土地売却益	12百万円	163百万円
建物及び構築物売却益	0百万円	一百万円
機械装置及び運搬具売却益	12百万円	17百万円
その他固定資産売却益	1百万円	0百万円
計	27百万円	181百万円

※3 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
(有形固定資産)		
建物及び構築物除却損	2百万円	184百万円
建物及び構築物売却損	14百万円	0百万円
機械装置及び運搬具除却損	0百万円	10百万円
機械装置及び運搬具売却損	10百万円	2百万円
その他固定資産除却損	5百万円	5百万円
その他固定資産売却損	0百万円	1百万円
計	34百万円	204百万円

※4 減損損失

前連結会計年度(自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

当社グループでは、減損の兆候を認識するに当たり、保有資産を事業用資産と賃貸用資産に分類し、また重要性の高い遊休資産及び処分予定資産については当該部分を上記分類より切り離し、グルーピングを行っております。

当連結会計年度において、当社グループが保有する資産及びリース資産について、減損損失の認識の判定並びに減損損失の測定を実施した結果、以下の資産について、事業目的の変更が決定され、回収可能価額が見込めなくなったため、帳簿価額全額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該資産については、期中に解体・撤去を完了しております。

用途	場所	種類	減損損失 (百万円)
処分予定資産	東京都江東区	建物等	97
		機械装置	21
		その他	0
		減損損失 合計	118

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

(百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	18,269	29,240
組替調整額	△14	△0
税効果調整前	18,255	29,240
税効果額	△6,495	△10,399
その他有価証券評価差額金	11,760	18,840
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	△13	39
税効果調整前	△13	39
税効果額	5	△14
繰延ヘッジ損益	△8	25
為替換算調整勘定		
当期発生額	2,754	2,532
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	719	691
組替調整額	△27	—
持分法適用会社に対する持分相当額	691	691
その他の包括利益合計	15,197	22,090

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
発行済株式				
普通株式	48,600,000	—	—	48,600,000
自己株式				
普通株式	453,575	1,985	—	455,560

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式

単元未満株式の買取りによる増加 1,985株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年5月23日 定時株主総会	普通株式	626	13	平成25年2月28日	平成25年5月24日
平成25年9月30日 取締役会	普通株式	578	12	平成25年8月31日	平成25年10月31日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年5月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	722	15	平成26年2月28日	平成26年5月23日

当連結会計年度（自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日）

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
発行済株式				
普通株式	48,600,000	—	38,880,000	9,720,000
自己株式				
普通株式	455,560	1,521	365,497	91,584

(注) 平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式

株式併合に伴う端数株式の取得による増加 12株

単元未満株式の買取りによる増加 1,509株 (株式併合前 1,311株 株式併合後 198株)

減少数の内訳は、次のとおりであります。

発行済株式

株式併合による減少 38,880,000株

自己株式

株式併合による減少 365,497株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年5月22日 定時株主総会	普通株式	722	15	平成26年2月28日	平成26年5月23日
平成26年9月30日 取締役会	普通株式	722	15	平成26年8月31日	平成26年10月31日

(注) 平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。当該株式併合後の株数を算定の基礎とした場合の1株当たり配当額は75円であります。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年5月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	770	80	平成27年2月28日	平成27年5月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
現金及び預金勘定	11,486百万円	13,450百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△2,684百万円	△4,775百万円
現金及び現金同等物	8,801百万円	8,675百万円

(リース取引関係)

1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成21年2月28日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度 (平成26年2月28日)

	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額 相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)
機械装置及び運搬具	329	295	34
工具、器具及び備品他	3	2	0
合計	333	298	34

当連結会計年度 (平成27年2月28日)

	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額 相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)
機械装置及び運搬具	42	41	1
工具、器具及び備品他	3	3	0
合計	46	44	1

(注)取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成26年2月28日) (百万円)	当連結会計年度 (平成27年2月28日) (百万円)
1年内	33	1
1年超	1	—
計	34	1

(注)未経過リース料期末残高相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

	前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日) (百万円)	当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日) (百万円)
支払リース料	75	33
減価償却費相当額	75	33

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リースのうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成26年2月28日) (百万円)	当連結会計年度 (平成27年2月28日) (百万円)
1年内	101	104
1年超	147	149
合計	248	254



## (金融商品関係)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、銀行等金融機関からの借入により運転資金、設備投資及び事業投資資金を調達しております。余剰資金については、銀行借入の返済を優先的に行うことで預金等の圧縮を図り、リスクの低減に努めております。

デリバティブ取引は後述するリスクを回避するために行っており、投機的な取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、外貨建てのものについては、為替変動リスクに晒されております。

投資有価証券は主に重要な取引先及び金融機関の株式であり、市場の価格変動リスクに晒されております。

取引先企業及び従業員に対し、長期貸付金を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金はそのほとんどが1年内の支払期日です。外貨建てのものについては、為替変動リスクに晒されております。

短期借入金及び長期借入金は、運転資金、設備投資及び事業投資資金の調達を目的としております。このうち変動金利の借入金は金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち一部については金利スワップ取引をヘッジ手段として用いております。

デリバティブ取引は、外貨建債権債務取引の将来の為替変動リスクを回避することを目的とした為替予約取引や借入金の金利変動について金利変動リスクをヘッジすることを目的とした金利スワップ取引等であり、市場リスクに晒されております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ①信用リスク（取引先の債務不履行等に係るリスク）の管理

受取手形及び売掛金、貸付金に係る顧客の信用リスクは内規（「信用管理規程」）に沿ってリスク低減を図っております。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券は主として重要な取引先等の株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

デリバティブ取引は内規（「リスク管理方針」）に基づき、実需の範囲で行うこととしております。

当社における為替予約取引は、担当部署からの依頼に基づき経理部門が実行し、毎月末持高を取りまとめのうえ、経理担当役員に報告しております。

連結子会社における為替予約取引については、担当部署からの依頼に基づき経理部門が実行し、毎月末の持高を取りまとめのうえ、親会社である当社の経理担当役員に報告しております。

また、金利スワップ取引については、金利負担の軽減を目的としているため、経理担当役員の承認を経て経理部門において行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格が無い場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約金額等については、この金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。（(注2)参照）

前連結会計年度（平成26年2月28日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	11,486	11,486	—
(2) 受取手形及び売掛金	183,660	183,660	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	96,996	96,996	—
関係会社株式	2,180	2,958	778
(4) 長期貸付金	184	184	—
資産計	294,507	295,286	778
(5) 支払手形及び買掛金	109,340	109,340	—
(6) 短期借入金	93,796	93,796	—
(7) 長期借入金(※1)	25,530	25,456	△73
負債計	228,667	228,593	△73
(8) デリバティブ取引(※2)	(9)	(9)	—

(※1) 長期借入金には、1年以内に返済予定の長期借入金が含まれております。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しております。

当連結会計年度（平成27年2月28日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	13,450	13,450	—
(2) 受取手形及び売掛金	205,324	205,324	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	126,901	126,901	—
関係会社株式	2,788	3,337	548
(4) 長期貸付金	147	147	—
資産計	348,612	349,160	548
(5) 支払手形及び買掛金	128,117	128,117	—
(6) 短期借入金	100,358	100,358	—
(7) 長期借入金(※1)	24,750	24,734	△15
負債計	253,225	253,210	△15
(8) デリバティブ取引(※2)	(83)	(83)	—

(※1) 長期借入金には、1年以内に返済予定の長期借入金が含まれております。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照ください。

(4) 長期貸付金

これらは金利の見直しが行われる変動金利型の長期貸付金であるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 支払手形及び買掛金、並びに(6)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(8) デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記をご参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
非上場株式等	7,044	7,015

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (平成26年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	11,486	—	—	—
受取手形及び売掛金	183,660	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
社債	—	—	32	—
長期貸付金	—	163	15	5
合計	195,146	163	47	5

当連結会計年度 (平成27年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	13,450	—	—	—
受取手形及び売掛金	205,324	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
社債	—	—	36	—
長期貸付金	—	134	10	2
合計	218,774	134	47	2

(注4) 短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度 (平成26年2月28日)

区分	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	93,796	—	—	—	—	—
長期借入金	7,391	3,670	5,924	1,151	6,551	841
合計	101,187	3,670	5,924	1,151	6,551	841

当連結会計年度 (平成27年2月28日)

区分	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	100,358	—	—	—	—	—
長期借入金	1,234	6,945	1,221	7,580	4,525	3,242
合計	101,593	6,945	1,221	7,580	4,525	3,242

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度 (平成26年2月28日)

種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの 株式	90,927	25,944	64,983
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの 株式	6,068	6,588	△519
合計	96,996	32,532	64,463

(注) 下落率30%~50%の株式の減損にあつては、個別銘柄毎にその回復可能性を総合的に検討し実施することとして  
おります。

当連結会計年度 (平成27年2月28日)

種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの 株式	125,647	31,971	93,676
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの 株式	1,253	1,340	△86
合計	126,901	33,311	93,589

(注) 下落率30%~50%の株式の減損にあつては、個別銘柄毎にその回復可能性を総合的に検討し実施することとして  
おります。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式	14	11	—

当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式	305	74	90

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度 (平成26年2月28日)

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	337	—	△7	△7
	その他の 通貨	480	—	16	16
	買建				
米ドル	1,191	—	24	24	
その他の 通貨	1,436	—	△26	△26	
合計		—	—	6	6

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度 (平成27年2月28日)

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	1,141	—	△7	△7
	その他の 通貨	474	—	53	53
	買建				
米ドル	2,189	—	13	13	
その他の 通貨	2,874	—	△167	△167	
合計		—	—	△107	△107

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度（平成26年2月28日）

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
繰延ヘッジ 処理	為替予約取引 売建				
	米ドル	売掛金	1,090	—	△6
	その他の 通貨	売掛金	37	—	0
	買建				
為替予約等 の振当処理	米ドル	買掛金	2,147	—	△13
	その他の 通貨	買掛金	532	—	4
	為替予約取引 売建				
	米ドル	売掛金	1,471	—	(注2)
合計	その他の 通貨	売掛金	164	—	(注2)
	買建				
	米ドル	買掛金	168	—	(注2)
	その他の 通貨	買掛金	25	—	(注2)
合計			—	—	△15

(注) 1 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている債権債務と一体として処理されているため、その時価は、当該債権債務の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（平成27年2月28日）

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
繰延ヘッジ 処理	為替予約取引 売建				
	米ドル	売掛金	1,112	—	△25
	その他の 通貨	売掛金	50	—	△1
	買建				
為替予約等 の振当処理	米ドル	買掛金	2,046	—	61
	その他の 通貨	買掛金	466	—	△10
	為替予約取引 売建				
	米ドル	売掛金	1,898	—	(注2)
合計	その他の 通貨	売掛金	183	—	(注2)
	買建				
	米ドル	買掛金	111	—	(注2)
	その他の 通貨	買掛金	79	—	(注2)
合計			—	—	24

(注) 1 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている債権債務と一体として処理されているため、その時価は、当該債権債務の時価に含めて記載しております。



## (2) 金利関連

前連結会計年度（平成26年2月28日）

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	13,100	7,100	(注2)
金利通貨スワップの一体処理（特例処理・振当処理）	金利スワップ取引 支払固定・受取変動 円支払・米ドル受取	長期借入金	2,000	2,000	(注2)
合計			—	—	—

(注) 1 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 金利スワップの特例処理及び金利通貨スワップの一体処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（平成27年2月28日）

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	5,800	5,800	(注2)
金利通貨スワップの一体処理（特例処理・振当処理）	金利スワップ取引 支払固定・受取変動 円支払・米ドル受取	長期借入金	2,000	2,000	(注2)
合計			—	—	—

(注) 1 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 金利スワップの特例処理及び金利通貨スワップの一体処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)

#### 1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職に際して割増退職金を支払う場合があります。なお、連結子会社の一部では、確定拠出制度を併用しております。

当社は、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度について退職給付信託を設定しており、平成16年4月に適格退職年金制度から確定給付企業年金制度に移行しております。

#### 2. 退職給付債務に関する事項

① 退職給付債務	△19,942百万円
② 年金資産(退職給付信託を含む)	28,484百万円
③ 小計(①+②)	8,541百万円
④ 未認識数理計算上の差異	△2,262百万円
⑤ 未認識過去勤務債務	△18百万円
⑥ 合計(③+④+⑤)	6,260百万円
⑦ 前払年金費用	8,162百万円
⑧ 退職給付引当金(⑥-⑦)	△1,901百万円

(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

#### 3. 退職給付費用に関する事項

① 勤務費用	873百万円
② 利息費用	269百万円
③ 期待運用収益	△474百万円
④ 数理計算上の差異の費用処理額	△69百万円
⑤ 過去勤務債務の費用処理額	△180百万円
⑥ 確定拠出年金拠出額	38百万円
⑦ 退職給付費用(①+②+③+④+⑤+⑥)	456百万円

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「① 勤務費用」に計上しております。

#### 4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

##### (1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

##### (2) 割引率

主として1.5%

##### (3) 期待運用収益率

主として2.0%

##### (4) 過去勤務債務の額の処理年数

主として10年(定額法)

##### (5) 数理計算上の差異の処理年数

主として10年

当連結会計年度（自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日）

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職に際して割増退職金を支払う場合があります。なお、連結子会社の一部では、確定拠出制度を併用しております。

当社は、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度について退職給付信託を設定しており、平成16年4月に適格退職年金制度から確定給付企業年金制度に移行しております。

## 2. 確定給付制度

### (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

退職給付債務の期首残高	17,598百万円
勤務費用	480百万円
利息費用	265百万円
数理計算上の差異の発生額	1,164百万円
退職給付の支払額	△973百万円
退職給付債務の期末残高	18,534百万円

### (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

年金資産の期首残高	27,748百万円
期待運用収益	541百万円
数理計算上の差異の発生額	7,144百万円
事業主からの拠出額	682百万円
退職給付の支払額	△973百万円
年金資産の期末残高	35,143百万円

### (3) 簡便法を適用した制度の退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	1,608百万円
退職給付費用	244百万円
退職給付の支払額	△81百万円
制度への拠出額	△73百万円
その他	49百万円
退職給付に係る負債の期末残高	1,746百万円

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	20,262百万円
年金資産	△35,876百万円
	△15,613百万円
非積立型制度の退職給付債務	752百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△14,861百万円
退職給付に係る負債	1,878百万円
退職給付に係る資産	△16,740百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△14,861百万円

(注) 簡便法を適用した制度を含んでおります。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	480百万円
利息費用	265百万円
期待運用収益	△541百万円
数理計算上の差異の費用処理額	△349百万円
過去勤務費用の費用処理額	△9百万円
簡便法で計算した退職給付費用	244百万円
確定給付制度に係る退職給付費用	88百万円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識過去勤務費用	△8百万円
未認識数理計算上の差異	△7,892百万円
合計	△7,900百万円

(7) 年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

株式	77%
債券	10%
一般勘定	8%
その他	5%
合計	100%

(注) 年金資産合計には、企業年金制度及び退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が62%含まれております。

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	主として1.0%
長期期待運用収益率	主として2.0%

3. 確定拠出制度

一部の連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、100百万円であります。

4. 複数事業主制度

一部の連結子会社は、複数事業主制度の厚生年金基金制度に加入しており、このうち、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度については、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、85百万円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況（平成26年3月31日現在）

年金資産の額	152,041百万円
年金財政計算上の給付債務の額	208,226百万円
差引額	△56,185百万円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合（平成26年3月31日現在）

1.2%

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	362百万円	407百万円
役員退職慰労引当金	244百万円	260百万円
たな卸資産	211百万円	308百万円
固定資産	565百万円	572百万円
投資有価証券	596百万円	597百万円
繰越欠損金	1,214百万円	1,299百万円
その他	949百万円	1,142百万円
繰延税金資産小計	4,144百万円	4,587百万円
評価性引当額	△2,909百万円	△3,101百万円
繰延税金資産合計	1,235百万円	1,486百万円
(繰延税金負債)		
租税特別措置法の諸準備金	△1,047百万円	△1,025百万円
退職給付関係	△2,252百万円	△5,348百万円
その他有価証券評価差額金	△22,937百万円	△33,337百万円
その他	△78百万円	△70百万円
繰延税金負債合計	△26,316百万円	△39,781百万円
繰延税金資産の純額	△25,081百万円	△38,295百万円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
流動資産－繰延税金資産	831百万円	1,026百万円
固定資産－繰延税金資産	304百万円	270百万円
流動負債－繰延税金負債	0百万円	0百万円
固定負債－繰延税金負債	26,217百万円	39,591百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当連結会計年度 (平成27年2月28日)
法定実効税率	—	38.0%
(調整)		
課税所得の算定上永久に損金算入されない項目	—	0.8%
住民税均等割額等	—	0.4%
受取配当金等永久に益金算入されない項目	—	△1.4%
持分法投資損益等	—	△2.0%
評価性引当額	—	△2.3%
在外子会社の適用税率の差異等の影響	—	△4.9%
子会社等欠損金のうち会計上認識されていない税効果	—	3.6%
その他	—	0.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—	33.0%

(注) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、記載を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成27年3月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異について、従来の38.0%から35.6%に変更されております。

なお、この税率変更による連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

4. 決算日後の法人税等の税率の変更

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する法律」が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度より法人税率及び地方税率が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から、平成28年3月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異について33.1%、平成29年3月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については32.3%となります。

変更後の法定実効税率を当連結会計年度末で適用した場合、繰延税金負債の金額（繰延税金資産の金額を控除した金額）が3,620百万円、法人税等調整額が295百万円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金が3,065百万円、退職給付に係る調整累計額が260百万円それぞれ増加します。

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、愛知県その他の地域において、賃貸オフィスビルや賃貸倉庫等を有しております。平成26年2月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は834百万円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上）であります。

平成27年2月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は853百万円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上）、固定資産売却益は163百万円（特別利益に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

		前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	14,831	14,183
	期中増減額	△647	△815
	期末残高	14,183	13,368
期末時価		18,293	17,858

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
- 2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は、不動産取得（28百万円）であり、主な減少額は、減価償却費（514百万円）、不動産売却（109百万円）であります。  
当連結会計年度の主な増加は、不動産取得（33百万円）であり、主な減少額は、減価償却費（480百万円）、不動産売却（361百万円）であります。
- 3 期末の時価は、適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づく金額であります。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、多様な商品の売買・製造等、国内及び海外において多角的な事業活動を展開しております。

従って、当社グループは、商品・サービス別の事業部門を基礎としたセグメントから構成されており、「鉄鋼」、「情報・電機」、「産業資材」及び「生活産業」の4つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントに属する主な商品又はサービスの内容は、以下の通りであります。

鉄鋼	鉄屑、棒鋼、鋼矢板、H型钢、鋼板、鋼管、機械構造用炭素鋼、合金鋼、軸受鋼、工具鋼、ステンレス鋼 他
情報・電機	銅・アルミ、レアアース、電子部材、汎用電機品、映像機器、半導体・周辺電子部品、ソフトウェア開発・販売 他
産業資材	工作機械、工具、産業用ロボット、自動車部品、合成樹脂原料、樹脂成形品、環境・リサイクル対応設備、半導体・電子関連設備機器 他
生活産業	配管資材、住設機器、住宅用資材、不動産開発、分譲マンション、水産物、畜産物、倉庫業 他

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	鉄鋼	情報・電機	産業資材	生活産業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	309,282	155,360	217,498	62,262	744,403	—	744,403
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,198	1,333	746	1,458	4,736	△4,736	—
計	310,480	156,694	218,245	63,720	749,140	△4,736	744,403
セグメント利益	4,284	3,265	5,077	1,571	14,199	△179	14,020
セグメント資産	123,060	50,912	79,667	38,257	291,898	114,582	406,481
その他の項目							
減価償却費	1,852	203	954	855	3,865	△76	3,788
のれんの償却額	77	—	41	—	119	—	119
持分法適用会社への投資額	4,558	8	1,543	111	6,221	—	6,221
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,852	190	858	205	3,107	△163	2,943

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△179百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額114,582百万円は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産であり、その主なものは、財務活動に係る現金、預金及び投資有価証券であります。
- (3) 減価償却費の調整額△76百万円は、主にセグメント間消去であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額△163百万円は、主にセグメント間消去であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	鉄鋼	情報・電機	産業資材	生活産業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	352,309	165,161	236,334	63,022	816,828	—	816,828
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,427	1,507	466	1,447	4,849	△4,849	—
計	353,737	166,668	236,801	64,469	821,677	△4,849	816,828
セグメント利益	4,875	3,547	6,195	1,159	15,778	417	16,195
セグメント資産	144,402	58,779	87,139	39,440	329,760	154,961	484,722
その他の項目							
減価償却費	1,856	225	1,073	786	3,941	△90	3,850
のれんの償却額	77	—	77	224	379	—	379
持分法適用会社への投資額	5,339	8	1,755	127	7,231	—	7,231
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,029	186	1,426	510	4,152	△51	4,100

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額417百万円は、主に報告セグメントに帰属しない退職給付関連損益であります。
  - (2) セグメント資産の調整額154,961百万円は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産であり、その主なものは、財務活動に係る現金、預金及び投資有価証券であります。
  - (3) 減価償却費の調整額△90百万円は、主にセグメント間消去であります。
  - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額△51百万円は、主にセグメント間消去であります。
2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度（自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日）

#### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

#### 2. 地域ごとの情報

##### (1) 売上高 (単位：百万円)

日本	アジア	欧米他	合計
548,514	147,832	48,055	744,403

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

##### (2) 有形固定資産 (単位：百万円)

日本	アジア	欧米他	合計
32,068	5,313	2,861	40,243

#### 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高 (単位：百万円)

日本	アジア	欧米他	合計
589,889	167,821	59,116	816,828

(注)売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産 (単位：百万円)

日本	アジア	欧米他	合計
31,816	6,007	3,021	40,845

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					全社・消去	合計
	鉄鋼	情報・電機	産業資材	生活産業	計		
減損損失	—	—	—	118	118	—	118

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又 は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員 の 近親者	代表取締役 専務取締役 馬場紀彰の 子及びその 配偶者	—	—	—	(被所有) 直接 0.0	—	住宅建築の 請負	28	—	—

- (注) 1. 取引金額には消費税等は含まれておりません。  
2. 取引条件及び取引条件の決定方針については、一般取引条件と同様に決定しております。

当連結会計年度（自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又 は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	代表取締役 専務取締役 馬場紀彰	—	—	—	(被所有) 直接 0.0	—	リフォーム 工事の請負	17	—	—

- (注) 1. 取引金額には消費税等は含まれておりません。  
2. 取引条件及び取引条件の決定方針については、一般取引条件と同様に決定しております。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
1株当たり純資産額	13,191円56銭	17,128円77銭
1株当たり当期純利益金額	1,063円71銭	1,295円23銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。
3. 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。  
この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額が、525円38銭増加しております。
4. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益	10,242百万円	12,471百万円
普通株主に帰属しない金額	—	—
普通株式に係る当期純利益	10,242百万円	12,471百万円
普通株式の期中平均株式数	9,629,059株	9,628,661株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	連結子会社発行の優先株式 200株	

5. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度末 (平成26年2月28日)	当連結会計年度末 (平成27年2月28日)
純資産の部の合計額	134,647百万円	173,195百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	7,627百万円	8,272百万円
(うち少数株主持分)	(7,627百万円)	(8,272百万円)
普通株式に係る期末の純資産額	127,020百万円	164,922百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数	9,628,887株	9,628,415株

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	93,796	100,358	0.853	—
1年以内に返済予定の長期借入金	7,391	1,234	2.052	—
1年以内に返済予定のリース債務	109	94	2.503	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	18,139	23,515	0.793	平成28年3月 ～ 平成35年3月
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	153	105	3.417	平成28年3月 ～ 平成32年1月
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	119,590	125,308	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年以内における返済予定額は、以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	6,945	1,221	7,580	4,525
リース債務	62	28	14	0

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	200,098	390,882	602,238	816,828
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	4,376	9,363	14,386	19,364
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	2,314	5,586	8,727	12,471
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	240.36	580.17	906.38	1,295.23

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	240.36	339.81	326.21	388.85

(注) 当社は、平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。これに伴い、当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年2月28日)		当事業年度 (平成27年2月28日)	
資産の部				
流動資産				
現金及び預金		367		243
受取手形	※2	25,529	※2、5	34,538
売掛金	※2	119,997	※2	130,033
商品		16,485		17,796
未着商品		1,238		1,910
前渡金	※2	2,759	※2	2,953
繰延税金資産		355		392
短期貸付金	※2	4,407	※2	5,787
未収入金	※2	2,140	※2	2,244
その他	※2	311	※2	338
貸倒引当金		△475		△301
流動資産合計		173,119		195,939
固定資産				
有形固定資産				
建物		13,232		12,485
構築物		359		315
機械及び装置		357		311
車両運搬具		27		18
工具、器具及び備品		388		486
土地		10,963		11,112
建設仮勘定		—		50
有形固定資産合計		25,327		24,780
無形固定資産				
ソフトウェア		213		264
電話加入権		31		31
無形固定資産合計		245		296
投資その他の資産				
投資有価証券	※1	97,858	※1	127,089
関係会社株式		9,550		9,971
出資金		1,758		1,831
関係会社出資金		2,955		1,874
長期貸付金	※2	209	※2	160
固定化営業債権	※2、3	2,459	※2、3	2,772
前払年金費用		8,162		8,915
その他	※2	1,083	※2	1,085
貸倒引当金		△2,450		△2,764
投資その他の資産合計		121,586		150,937
固定資産合計		147,158		176,014
資産合計		320,278		371,953

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年 2月28日)	当事業年度 (平成27年 2月28日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	※2 8,534	※2、5 10,344
電子記録債務	14,519	※5 19,986
買掛金	※2 65,320	※2 73,478
短期借入金	※2 79,840	※2 76,056
未払金	※2 1,866	※2 2,228
未払法人税等	1,457	1,397
前受金	※2 729	※2 709
預り金	※2 582	※2 171
賞与引当金	432	458
その他	※2 57	※2 80
流動負債合計	173,340	184,911
固定負債		
長期借入金	16,600	21,400
繰延税金負債	25,881	36,313
役員退職慰労引当金	394	408
債務保証損失引当金	669	546
関係会社事業損失引当金	6	—
資産除去債務	377	382
その他	2,036	2,263
固定負債合計	45,965	61,314
負債合計	219,305	246,225
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,128	9,128
資本剰余金		
資本準備金	7,798	7,798
資本剰余金合計	7,798	7,798
利益剰余金		
利益準備金	1,244	1,244
その他利益剰余金		
買換資産圧縮積立金	1,220	1,185
特別償却積立金	2	—
配当準備積立金	100	100
別途積立金	32,800	38,800
繰越利益剰余金	8,131	8,378
利益剰余金合計	43,499	49,708
自己株式	△437	△440
株主資本合計	59,988	66,195
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	40,992	59,517
繰延ヘッジ損益	△8	15
評価・換算差額等合計	40,983	59,533
純資産合計	100,972	125,728
負債純資産合計	320,278	371,953



## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)	当事業年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)
売上高	※1 540,720	※1 578,547
売上原価	※1 516,325	※1 552,826
売上総利益	24,394	25,721
販売費及び一般管理費	※1、2 17,143	※1、2 17,063
営業利益	7,250	8,657
営業外収益		
受取利息及び配当金	※1 5,161	※1 5,379
その他	※1 324	※1 377
営業外収益合計	5,485	5,756
営業外費用		
支払利息	※1 866	※1 780
為替差損	119	123
その他	※1 320	※1 331
営業外費用合計	1,305	1,235
経常利益	11,430	13,178
特別利益		
固定資産売却益	1	0
投資有価証券売却益	11	74
関係会社株式売却益	28	15
特別利益合計	40	89
特別損失		
固定資産処分損	2	186
減損損失	—	118
関係会社株式売却損	—	1,702
投資有価証券評価損	1	1
関係会社株式評価損	465	85
出資金評価損	38	0
特別損失合計	508	2,095
税引前当期純利益	10,962	11,172
法人税、住民税及び事業税	3,141	3,360
法人税等調整額	244	156
法人税等合計	3,386	3,517
当期純利益	7,576	7,654

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日)

(単位：百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金 合計
当期首残高	9,128	7,798	7,798
当期変動額			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
買換資産圧縮積立金の取崩			
特別償却積立金の取崩			
別途積立金の積立			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			
当期変動額合計	—	—	—
当期末残高	9,128	7,798	7,798

	株主資本						
	利益剰余金						
	利益準備金	その他利益剰余金					利益剰余金 合計
		買換資産 圧縮積立金	特別償却 積立金	配当準備 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	1,244	1,243	8	100	27,800	6,730	37,127
当期変動額							
剰余金の配当						△1,204	△1,204
当期純利益						7,576	7,576
自己株式の取得							
買換資産圧縮積立金の取崩		△23				23	—
特別償却積立金の取崩			△5			5	—
別途積立金の積立					5,000	△5,000	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	△23	△5	—	5,000	1,400	6,371
当期末残高	1,244	1,220	2	100	32,800	8,131	43,499

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△434	53,618	29,472	△1	29,471	83,090
当期変動額						
剰余金の配当		△1,204				△1,204
当期純利益		7,576				7,576
自己株式の取得	△2	△2				△2
買換資産圧縮積立金の取崩		—				—
特別償却積立金の取崩		—				—
別途積立金の積立		—				—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			11,519	△7	11,512	11,512
当期変動額合計	△2	6,369	11,519	△7	11,512	17,881
当期末残高	△437	59,988	40,992	△8	40,983	100,972

当事業年度(自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

(単位：百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金 合計
当期首残高	9,128	7,798	7,798
当期変動額			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
買換資産圧縮積立金の取崩			
特別償却積立金の取崩			
別途積立金の積立			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			
当期変動額合計	—	—	—
当期末残高	9,128	7,798	7,798

	株主資本						
	利益剰余金						
	利益準備金	その他利益剰余金					利益剰余金 合計
		買換資産 圧縮積立金	特別償却 積立金	配当準備 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	1,244	1,220	2	100	32,800	8,131	43,499
当期変動額							
剰余金の配当						△1,445	△1,445
当期純利益						7,654	7,654
自己株式の取得							
買換資産圧縮積立金の取崩		△34				34	—
特別償却積立金の取崩			△2			2	—
別途積立金の積立					6,000	△6,000	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	△34	△2	—	6,000	246	6,209
当期末残高	1,244	1,185	—	100	38,800	8,378	49,708

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△437	59,988	40,992	△8	40,983	100,972
当期変動額						
剰余金の配当		△1,445				△1,445
当期純利益		7,654				7,654
自己株式の取得	△3	△3				△3
買換資産圧縮積立金の取崩		—				—
特別償却積立金の取崩		—				—
別途積立金の積立		—				—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			18,525	24	18,549	18,549
当期変動額合計	△3	6,206	18,525	24	18,549	24,756
当期末残高	△440	66,195	59,517	15	59,533	125,728

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

### 2 デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

### 3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

移動平均法に基づく原価法 (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

### 4 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産 (リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く。)については、定額法によっております。

#### (2) 無形固定資産 (リース資産を除く)

定額法によっております。

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成21年2月28日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

## 5 引当金の計上基準

### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権は個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

### (2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払いに充てるため、支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。

### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上することとしておりますが、当期末においては前払年金費用計上のため、退職給付引当金は計上しておりません。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

過去勤務費用については、定額法(期間10年)により費用処理しております。

数理計算上の差異については、定額法(期間10年)によりそれぞれ発生の翌期から費用処理しております。

### (4) 役員退職慰労引当金

役員の退任により支出する役員退職慰労金に充てるため、内規に基づく期末要支払額を引当計上しております。

### (5) 債務保証損失引当金

債務保証に係る損失に備えるため、被債務保証先の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

### (6) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業の損失に備えるため、関係会社の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

## 6 ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、為替予約等についてヘッジ会計の要件を満たす場合は、振当処理によっております。また、金利スワップのうち特例処理の要件を満たすものについては、特例処理によっております。

## 7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

### (2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第26条に定める減価償却累計額の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第80条に定めるたな卸資産の帳簿価額の切り下げに関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の3の2に定める減損損失に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。



(貸借対照表関係)

※1 担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当事業年度 (平成27年2月28日)
投資有価証券	173百万円	185 百万円

上記資産は、仕入代金の支払保証のため、差し入れております。

※2 関係会社に係る注記

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当事業年度 (平成27年2月28日)
短期金銭債権	34,185百万円	44,765百万円
短期金銭債務	8,819百万円	11,869百万円
長期金銭債権	2,310百万円	2,524百万円

※3 破産債権、再生債権、更生債権その他これらに準ずる債権であります。

4 保証債務

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当事業年度 (平成27年2月28日)
銀行借入保証	3,346百万円	3,855百万円
取引保証	604百万円	—

※5 事業年度末日満期手形等

事業年度末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の事業年度末日満期手形等が、事業年度末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当事業年度 (平成27年2月28日)
受取手形	—	3,651百万円
支払手形	—	2,164百万円
電子記録債務	—	4,584百万円

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引に係るものは、次のとおりであります。

	前事業年度		当事業年度	
	(自	平成25年3月1日	(自	平成26年3月1日
	至	平成26年2月28日)	至	平成27年2月28日)
売上高		106,840百万円		122,343百万円
仕入高		30,609百万円		34,731百万円
販売費及び一般管理費		3,311百万円		3,277百万円
営業取引以外の取引		3,443百万円		2,968百万円

※2 販売費に属する費用のおおよその割合は、前事業年度17%、当事業年度17%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度83%、当事業年度83%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度		当事業年度	
	(自	平成25年3月1日	(自	平成26年3月1日
	至	平成26年2月28日)	至	平成27年2月28日)
運送費及び保管費		2,597百万円		2,563百万円
貸倒引当金繰入額		119百万円		△84百万円
給料及び賃金		4,149百万円		4,284百万円
賞与		1,367百万円		1,419百万円
賞与引当金繰入額		432百万円		458百万円
退職給付費用		△29百万円		△225百万円
役員退職慰労引当金繰入額		46百万円		54百万円
福利厚生費		1,190百万円		1,287百万円
減価償却費		1,415百万円		1,256百万円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度 (平成26年2月28日)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	1,000百万円	2,900百万円	1,900百万円
関連会社株式	219百万円	2,958百万円	2,739百万円
計	1,219百万円	5,858百万円	4,639百万円

当事業年度 (平成27年2月28日)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	1,000百万円	4,525百万円	3,525百万円
関連会社株式	409百万円	3,337百万円	2,927百万円
計	1,409百万円	7,862百万円	6,452百万円

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

区分	前事業年度 (平成26年2月28日)	当事業年度 (平成27年2月28日)
子会社株式	7,762百万円	7,992百万円
関連会社株式	568百万円	569百万円
計	8,330百万円	8,562百万円

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当事業年度 (平成27年2月28日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	164百万円	163百万円
たな卸資産	20百万円	35百万円
貸倒引当金	596百万円	992百万円
役員退職慰労引当金	140百万円	145百万円
投資有価証券	221百万円	221百万円
関係会社株式及び出資金	1,841百万円	1,827百万円
出資金	321百万円	321百万円
未払事業税	140百万円	133百万円
土地、建物	306百万円	345百万円
その他	382百万円	325百万円
繰延税金資産小計	4,134百万円	4,511百万円
評価性引当額	△3,467百万円	△3,768百万円
繰延税金資産合計	667百万円	742百万円
(繰延税金負債)		
租税特別措置法の諸準備金	△679百万円	△656百万円
退職給付関係	△2,830百万円	△3,098百万円
その他有価証券評価差額金	△22,605百万円	△32,829百万円
その他	△76百万円	△77百万円
繰延税金負債合計	△26,192百万円	△36,662百万円
繰延税金資産の純額	△25,525百万円	△35,920百万円

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当事業年度 (平成27年2月28日)
流動資産－繰延税金資産	355百万円	392百万円
固定負債－繰延税金負債	25,881百万円	36,313百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当事業年度 (平成27年2月28日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
(調整)		
課税所得の算定上永久に損金算入されない項目	1.0%	1.0%
住民税均等割額等	0.4%	0.4%
受取配当金等永久に益金算入されない項目	△12.8%	△12.2%
評価性引当額	3.3%	3.3%
その他	1.1%	1.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.9%	31.5%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成27年3月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、従来の38.0%から35.6%に変更されております。

なお、この税率変更による財務諸表に与える影響は軽微であります。

4. 決算日後の法人税等の税率の変更

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する法律」が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度より法人税率及び地方税率が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から、平成28年3月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について33.1%、平成29年3月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については32.3%となります。

変更後の法定実効税率を当事業年度末で適用した場合、繰延税金負債の金額（繰延税金資産の金額を控除した金額）が3,349百万円、法人税等調整額が310百万円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金が3,039百万円増加いたします。

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④ 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区 分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形 固定資産	建物	13,232	143	95 (95)	792	12,485	14,666
	構築物	359	13	1 (1)	55	315	1,418
	機械及び装置	357	58	21 (21)	81	311	2,146
	車両運搬具	27	11	7	13	18	84
	工具、器具及び備品	388	296	2 (0)	195	486	1,479
	土地	10,963	148	—	—	11,112	—
	建設仮勘定	—	50	—	—	50	—
	計	25,327	722	128 (118)	1,138	24,780	19,796
無形 固定資産	ソフトウェア	213	168	5	111	264	591
	電話加入権	31	—	—	—	31	—
	計	245	168	5	111	296	591

(注) 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

## 【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	2,925	1,181	1,041	3,065
賞与引当金	432	458	432	458
役員退職慰労引当金	394	54	41	408
債務保証損失引当金	669	—	122	546
関係会社事業損失引当金	6	—	6	—

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	8月31日、2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行(株) 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行(株)
取次所	—
買取・買増手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="http://www.okaya.co.jp/">http://www.okaya.co.jp/</a>
株主に対する特典	毎年2月末日現在における最終株主名簿に記載された所有株式数100株以上の株主に対して、《山の幻 愛知米ミネアサヒ5kg》、及び毎年8月末日現在における最終株主名簿に記載された200株以上の株主に対して、《山の幻 愛知米ミネアサヒ5kg》を贈呈する。

(注) 1 当社は、単元未満株式についての権利に関し、以下のとおり定款に定めております。

当社の単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (3) 買増しの請求をする権利

2 平成26年9月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合及び定款の一部変更が行われ、単元株式数を500株から100株へ変更しております。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)	有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第78期)	自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日	平成26年5月23日 関東財務局長に提出
(2)	内部統制報告書 及びその添付書類			平成26年5月23日 関東財務局長に提出
(3)	四半期報告書 及び確認書	(第79期 第1四半期)	自 平成26年3月1日 至 平成26年5月31日	平成26年7月11日 関東財務局長に提出
		(第79期 第2四半期)	自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日	平成26年10月15日 関東財務局長に提出
		(第79期 第3四半期)	自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日	平成27年1月14日 関東財務局長に提出



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年 5月28日

岡谷鋼機株式会社  
取締役会 御中

## 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岡 野 英 生 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 奥 谷 浩 之 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 時 々 輪 彰 久 ㊞

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている岡谷鋼機株式会社の平成26年3月1日から平成27年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、岡谷鋼機株式会社及び連結子会社の平成27年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、岡谷鋼機株式会社の平成27年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、岡谷鋼機株式会社が平成27年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(※) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成27年 5月28日

岡谷鋼機株式会社  
取締役会 御中

## 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岡 野 英 生 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 奥 谷 浩 之 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 時 々 輪 彰 久 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている岡谷鋼機株式会社の平成26年3月1日から平成27年2月28日までの第79期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、岡谷鋼機株式会社の平成27年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(※) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。